

# 創刊100号記念特集号

# 東京 陵 水

賀 正

平成25年 元旦  
陵水会東京支部役員一同



平成 24 年度総会と『東京陵水』既発行の一部



|        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 1面     | 目次                                 |
| 2～3面   | 年頭挨拶(守屋支部長)                        |
| 4面     | 戸田理事長百号祝辞                          |
| 5～7面   | 「東京陵水」百号まで                         |
| 8～10面  | 祝「東京陵水」紙発刊百号                       |
| 11～18面 | 二十四年・二十五年総会関連記事<br>寄稿論文<br>現役学生座談会 |
| 19～22面 | 「ごんには」                             |
| 23～24面 | 随想                                 |
| 25～28面 | フェリスブックの利用                         |
| 29～30面 | ラグビー部90周年と<br>ゴルフ会・囲碁会散歩会<br>集い    |
| 31面    | 会費納入者一覧                            |
| 32面    | 広告・奥付                              |

## 年頭のご挨拶と

## 「東京陵水」100号の発行によせて

東京支部長 守谷 貞夫

明けましておめでとござい  
ます。

旧年中は東京陵水会に対し、  
会員各位のご協力ご助力を賜り  
感謝申し上げます。今年もどう  
ぞよろしくお願い致します。

バブル崩壊後、日本経済は長  
期低迷を続け一度も力強い回復  
を見せることのないまま、既に  
二十年が経とうとしています。

特に昨年は震災の後遺症に悩  
まされると共に政府の痴呆化に  
伴う対米関係の崩壊、結果とし  
ての円高株安、尖閣諸島問題、  
竹島問題、北方領土問題に振り  
廻され、ユーロ危機に戸惑う一  
年でありました。今年が良い年  
となる様祈るばかりです。

今年には母校開校九十周年、東  
京陵水新聞百号紙発行の記念す  
べき年を迎えました。

## 滋賀大学経済学部の前身たる

彦根高商は、大正十二（一九二二）  
三）年に第一回入学式を挙行、  
今年四月一日にて九十周年を迎  
えることになりました。この間、  
多士済済を輩出し、我が国の発  
展に大いに寄与した事は周知の  
事実です。

三年後の大正十五（一九二六）  
年に第一回卒業生を送り出しま  
した。同年五月八日、彦根高等  
商業学校同窓会が結成され、同  
時に東京支部、大阪支部が開設  
されました。従って陵水会東京  
支部は今年で八十七周年を迎え  
ることになります。

九十周年行事として、大学側  
は十一月三日に記念式典を計画  
されており。これとは別に  
陵水会行事として、十一月二十  
三日に記念祝典を盛大に開催す  
べく準備中です。会員各位のご  
参加を心から願っています。

年に数回母校を訪問する度に  
感じる事は、昔のままの街並み  
と、校舎は建て替わっても旧来  
の雰囲気醸し出すキャンパス

す。

には、懐かしさと共に感銘を覚  
えてなりません。各位におかれ  
まして、是非一度青春の地、  
彦根を訪問される事をお勧め致  
します。

また、九十周年行事の一環と  
して、恐縮ですが寄付金をお願  
いする事になります。八十周年  
で集め、リスクセンターに寄贈  
した資金が減少しており、一〇  
〇周年に向けての基金と致しま  
すので、何とぞご協力の程よろ  
しくお願い致します。

東京陵水新聞一〇〇号記念紙  
を発行する事が出来ましたこと  
は喜びにたえません。まずはジ  
ックリお読みください。

昭和三十七年に一号紙発行か  
ら一〇〇号まで、質の高い会報  
の発行が出来ました事は取材編  
集に携わられた諸先輩の努力の  
賜物であり、深く敬意を表しま  
す。当初、年二回発行されてい

たのですが経費削減の為、年一  
回の発行となったにも拘らず一  
〇〇号が発行出来た事は、その  
価値が益々増したものと思われ  
ます。引き続き関係各位のご協  
力をお願い申し上げます。特に  
長年ご尽力いただいております、  
編集部各位に対して陵水会東京  
支部を代表して御礼申し上げます。

す。

# 「東京陵水」一〇〇回 記念号の発刊に寄せて

陵水会理事 戸田 一雄

陵水会・東京支部機関紙「東京陵水」が、一〇〇号発行を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。本当におめでとうございます。

一言で一〇〇号と言いましても、「東京陵水」紙はその出版を生業にしているプロの会社の事業ではありません。お忙しい本業のお仕事の合間を縫って編集・発行をされるご努力は、並大抵のものではなかったと思います。それだけに、一〇〇号までの歩みは貴重なものです。

私も数年前一度、私が理事長をしていたお茶の水の芸術学校で、編集担当の鈴木様の取材をお受けしたことがあります。取材内容は、私が松下電器（今のパナソニック）で仕事をしていた頃に得た教訓についてであったと思いますが、鈴木様の、綿密な取材のためのご準備、非常に真摯できつちりとしたご取材に、感激をした記憶があります。そんなご努力の積み重ねが、今回の金字塔につながっていると思います。

陵水会は、まもなく設立九十

周年を迎えます。その中で東京陵水会は、設立直後の大正十五年に誕生したと聞いています。

東京支部には、今日の陵水会の発展を、文字通り一蓮托生で支えて来て頂きました。これも歴史支部長各位の優れたリーダーシップ、それに気心を合わせ盛り上げて来て頂いた、多くのスタッフの皆さんによる合点の行く精神的な推進、広報役を果たしてこられた「東京陵水」紙の



適格な広報活動……この三つが非常に大きいと思います。どうかこれからも、陵水会本部との強い絆をさらに太いものにして、陵水会活動を盛り上げて頂きたいと願っています。

その新しく深い絆の一つが、若い陵水会員同士の情報ネットワークであると思います。今日までの陵水会活動は、本部を核とし、各地の陵水会支部が独

自性を加えた個性豊かな支部運営を行い、陵水会の活動を堅固なものにしてきました。

例えば、兵庫支部の年次総会は、毎年神戸港を見下ろす神戸山手の「神戸外国倶楽部」で開催。支部総会に次いで、クラシック音楽の生演奏を聴きワインを楽しまむ会にしておられますし、湖東支部では、支部総会を近江商人発祥の地めぐりと合わせ開催、近江商人道の研究と兼ねておられます。

このような個性豊かな支部活動は、今後も拡大をして行かねばなりません。同時に、「情報化社会」が一段の発展を見、特に若い陵水会員にとっては今や、陵水会活動は、地域の枠を超えた幅広い連携の下での活動を求めています。

私も、この地域密着と、ブロードなコミュニケーションの両方から陵水活動を展開する、新しい時代の門口に立っています。そしてこの二つの活動の何れも東京の発信力を求めています。

東京陵水紙一〇〇号発行に心からの祝意を申し上げますと共に、この力を更なる陵水会の発展にも繋がりますよう、お力添えをお願いし、ご挨拶とします。

そこで、手許に残されているバックナンバーに沿って、百号までの大よその編集の経過、内容をたどることにした。

# 「東京陵水」紙の 一〇〇号まで 「東京陵水」編集部

「東京陵水」第一号が発刊されたのは、毎年二号づつ発刊されたとして、手許に残るバックナンバー最古の昭和五十一年五月一五日付発行の三十三号から推定して、昭和三十五年春にさかのぼる。ところが第一号発刊当時、編集主幹の木村信一氏（本19）を支援した小野盛四郎氏（工2）が、本紙七十四号（平成十年一月十五日刊）に「木村前編集長に感謝」の題で寄稿された記事によるとつぎのとおりである。「木村さんが東京陵水を始めたのは昭和三十七年である。当時（略）編集者になった者は数人いたそうだが、いつの間にか木村さん一人になってしまった。毎日新聞の記者として自然そうだったようである」とある。いずれにしても昭和三十年代後半の発行は間違いない。

年一月に開催した宇野宗佑氏の講演概要、二ページ〜六ページは五十年十一月に逝去された元彦根高商校長・矢野貫城氏の追悼特集、七ページ消息、八ページに随筆となっている。活字が小さく行間もせまく、一行十三字で読みにくいものだった。保有として続く三十六号、三十八号、三十九号（五十三年冬季号）は、新聞紙二つ折り版二ページになり、活字のポイント

は同じだが、行間が広く読みやすくなった。三十九号では、徹底取材としてゼミナールを取り上げ、五十三年度総会・事務局だより・会員の広場（随筆など）OB会だよりという内容だった。

五十七年三月発行の四十二号ではB5版十六ページになっている。以後印刷所は佐野志郎氏（本18・元東京支部長）経営の千代田オフセット社として、平成十三年七月発行の八十一号までこの紙面が継続した。紙面の内容は各号ともその年度の総会開催記事、特別講演の要旨、新年早々に開かれていた名刺交換会での講演の要旨から始まり、寄稿記事（文芸・随想・旅行記・趣味等）、近況記事（各期同期会開催内容・旧友の今・運動部

の成果)となっている。後に「ゴルフ談議」の記録記事もできた。また各期で発行の同期会誌、その他会員に繋がり深いものを引用掲載していた。紙面の基本となる構図がこの時できた。

以下主要記事を列記する。八十二号(平成十四年一月)、母校宮本憲一学長との対談。「こんにちは」。八十三号(平成十四年五月)、オリンパス光学の北村茂男社長(本10)の逝去に伴う同社最高顧問下村敏郎氏の弔辞を同社の好意により掲載。八十四号(平成十五年一月)、宮本学長との対談「母校の独立行政法人化に向けて」。八十五号(平成十五年五月)、岡田一理事長寄稿「創立八十周年を祝して」。八十七号(平成十六年

一月)に田原総一朗氏の特別講演を掲載。八十号(平成十三年七月)はホームページ開設特集号として樋口広太郎氏からの祝辞、解説、ホームページ利用者意見などを掲載。「対談」として、次号より「こんにちは」の表題で掲載を続ける会員インタビュー記事の初号に、豊田徳司氏(大17)の登場をお願いした。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

平成九年度総会が同年十月十八日に開催され、新たに「東京陵水」編集担当者が決まった。それまでほとんど単独で編集に携わっていた木村信一氏(前述)が、高齢を迎え新人にバトンタッチをしたという意向があった。そこで当時の川本茂支部長(大1)、警方海三幹事長(大4)は後任の編集担当者の選出に腐心し、滋賀大陵水新聞会OBの鈴木重成氏(大7)、浦谷政夫氏(大7)、林史欣氏(大8)、大原孝明氏(大38)を決めた。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

●印刷費が高い。印刷費のより安価な印刷所として、当時の事務局、富士貿易社の関係で御徒町の船舶印刷(株)に、平成十四年一月から依頼する事になった。印刷所の変更と併せて紙面をB5版からA4版十六ページに、又活字のポイントを大きなものに変更し、今日に至る。

# 祝「東京陵水紙百号発刊」

平成五〜十四年幹事長

著方 海三(大4)

まずは五十年余の広報、交流の提供で百号に敬意!

「これからの陵水会活動を考える」は若い世代に委ねるとして、小生が関った二十数年を振り返り、何らかの参考になればと三〜四項記してみる。

一、交流の輪の広がりを見る。一つは「支部総会」の参加者数である。本年七月は二四〇

余名と盛会。ずっと百名内外で推移していたが、二十一年度に二百名の大台超え以来拡大が続く。この要因の一つは「卒回同期幹事制度」の導入にある。

平成十三年度の東京ステーションホテルでの幹事会にて、当時幹事長であった小生が提案した。それまで講師、会場など幹事間で検討してきたが、ややマンネリ。特に講師は安易に外部に求めるのではなく、卒業以来

三十数年経て、それぞれの分野、業界のオーソリティが仲間輩を出している筈。この献策に明十四年度は、大卒十四回の集団幹事制にし、以後も十五年度は十

五回と卒回同期の責任制とする。彦根を卒業以来ヨコの連絡、

交流もないまま、当時一般の六十歳定年近く、第二の人生を迎えるにあたり、同期有志間で情報交換するメリットを説いた。

その後会場も明治記念館、上野精養軒などと順調に拡大し、

一方卒業以来全く消息の無かったメンバーがこの幹事制をきっかけに集えることが出来たと感謝されている。

二、次にこの伏線となったのが、平成二年三月に始めた「親善ゴルフ会」である。



当日電車も停まる強風下の赤羽CCで実施。僅か十二名であったが、新ペリヤで小生が優勝、二位が後の支部長小池氏、三位が支部長の川本氏の共に大1

で、以降年四回、優勝者のコース設定など歓談の席で決定。第二回、葛上氏(本20)のお世話で名門柏CCと発展。参加者は

元、前支部長の高田氏(本7)、佐野氏(本18)などが顔を連れ、結果としてタテの交流の大きな力となった。

以後二十〜三十余名で推移したが、第三十二回以降、楠田氏

(本24)のお世話で現在の「金乃台CC」に定着。懇親パーティでの飲み放題もあって七十回

大会には四十七名が参加し、タテの交流の大きな原動力の一つになっていく。永年ゴルフ幹事

長だった小生が東京支部の幹事長となり、なお川本、箸方は十六回まで年四回、十七年間完全参加したのも思い出である。

三、このゴルフ会から端を発した改革が二つ。その一は平成九年の新聞の編集責任者の交替である。

永年元新聞記者で著述業の木村信一氏(本19)が編集、元支部長の佐野印刷で発刊。大変なご苦労を一人で背負い、敬意を表していたが、多少唯我独尊、ワンマンで講話のテンプ起し、

ゲラの添削なしで記事にしてしまい、クレームがつくことも多々あって、その改善、交代が求められていた。しかし一年先輩の佐野氏、支部長の川本氏も仲々言い出せず。

大学出身の鈴木、浦谷(大7)林(大8)君等を口説いた上、小生が猫の首に鈴をつける大役を難航の末果たした。この交代劇のシナリオもゴルフ会の

往復電車中に囁かれたもの。以降の新聞の充実はご承知のこと

である。

その二は支部事務局の充実、川本支部長時代、新聞の発送、

総会案内、出欠整理なども奥さまの病院関係者の手助けで行われていくことを知り、この打開

には支部長がオーナー経営者であることの利を考えていた。たまたま平成九年四月第二十九回

鳳琳CCで小池夫妻が優勝、準優勝と上位独占、次三十回六月

をこ夫妻メンバーの磯子CCで開催。当日富士貿易の陵水OB

の幹部が安江(大4)北沢(短5)中川(大10)小口(大14)藤本(大15)君らが参加。この頼もしさに懇親パーティの席

上、小池氏の支部長就任を要請、スタッフに恵まれ、川本氏との友情からも重ねて迫り、ついに承諾をとった。後、玄関先で

川本氏の小躍りが続き、その喜びの様が今も目に焼きついてい

る。以降五年間、富士貿易は十五年からの宇治原氏(大7)の四年間も支え、十九年度からの

## 星出公認会計士事務所

所長 星出 潔 (大13回)

〒112-0002 東京都文京区小石川2丁目3番28-805号

TEL 03-3815-3451 (代表) FAX 03-3815-3637

E-mail : khoside@cameo.plala.or.jp

# 平成二十五年度支部総会の概要

○開催日時 平成二十五年七月六日(土) 午後五時～八時

○会場・上野精養軒

(台東区上野公園四の五八)

○三・三八二一・二二八一

○会費・七〇〇円

○記念講演講師・警視庁OB・上條正親氏。今回は昭和五十二年卒の大学二十五回が支部総会の当番幹事で、支部幹部の皆様のご指導を頂きながら、準備を進めております。連絡の取れている幹事メンバーは左記の通りですので宜しく願います。

小谷恭一・田村弘昭・永田雅典  
山本哲治・福田康夫・太田隆康  
楠田芳弘・中尾佳史・安井喜重  
沖本祐司・高橋康彦・高山克徳  
濱塚純一・山田将人・岡本幸博  
香山 隆・石黒俊一郎

計十七名

既に八月より打合せをスタートし、役割分担や運営方法などの相談を進めております。

昨年の参加者は二〇〇人を超え会員の輪がますます拡がってきておりますが、本年も前年同様多くの会員の皆様にご参加頂きますよう土曜日開催としております。

詳細の内容は今後詰めて参りますが、当日の席次は前年同様

# 平成二十四年度東京支部総会

新企画・新趣向で模様替え 東京陵水人の親睦と友情の深化

平成二十四年七月七日(土)午後五時から、上野公園内の老舗レストラン「上野精養軒」において、昨年度東京支部総会が会員二百余の出席者を迎えて開催された。

司会を小梶清司幹事長(大18)が担当。今回の開催には、大学二十四回卒業生が当番幹事として諸設営、運営に当たった。

更に若手陵水会が受付、司会、アトラクションに全面的に協力した。若手会の考案による利きの酒大会のコーナーの設置、今後の支部運営についてアンケートを実施する、土産に彦根の名水の提供等、が伝えられた。

守谷貞夫支部長(大12)の挨拶。新理事長戸田さんへの期待。当番幹事二十四回生と総会設営関係者への感謝、朝日レガッタなどのボート部五十歳以上の競技で優勝、大活躍への称賛、「東京陵水が来年一月で一〇〇号発行への協力要請。

この後、議長に鈴木重成氏(大7)を選び総会議事審議に進んだ。

平成二十三年度事業報告並びに収支決算が、協坂守事務局長

新しい趣向として、講演にかわる特別講演を、女流講師師神田織音(おりね)師匠から聴く。

講演のテーマは「講演で語る成年後見制度」。高齢化によって起きる判断能力の低下を狙って悪質な商売が蔓延してきている。実話を物語にした講演により、不利益を被らないよう、成年後見制度を利用しよう、と語る。

午後六時三十分から懇親会が、湧川勝巳当番幹事、平良友枝氏(大57)の司会で開会された。男女コンビの司会は初めての企画。会場はテーブルごとに卒業年次別、ボート部、ヨット部、グリークラブ等は真ん中に集められ、参加者の好感を誘った。

先ず六月に陵水会理事長に就任の戸田一雄氏(大12)に挨拶と乾杯の発声をお願いした。「来年は母校が創立九十年を迎える意義深い年。陵水会をさらに大きくして皆で祝いたい。大学35回以降の会員は本日参加者の十五%で陵水会も高齢化が進む。若いメンバーをどんどん増やしたい。例えば名古屋支部、福井支部では高齢化に向けて个性的な対策をしている。若手を増やす事も陵水会の大きな柱にした



若い女子会員



先輩会員

い。また現役を支援する陵水会にしたい。」

会場内には新企画の「利き酒コーナー」が設置。日本酒を試飲して種類を当てる。物産販売店の紹介。彦根市産業部観光振興課から彦根観光の協力を求めた挨拶がある。

朝日レガッタ新設種目「特別

平均五十歳以上エイト」で優勝のボート部OB六名が登壇、紹介される。緒方俊輔（大29）が代表して挨拶。二十三名が競技に参加しうち東京支部からは十四名、今日は六名が出席した。

現役は一時は部員が大きく減ったことがあったが現在は約六十名の在籍。

今年度新入会員（大60）の男子四名が登壇、自己紹介と挨拶をした。

続いてご出席の滋賀大学大学院教授・久保英也氏が「リスクフラッシュ」のことを含めた挨拶をされた。

懇親の終盤では、当番幹事の24回生が登壇紹介された。田中恒男代表幹事が昨年七名だった同期が今年は十四名の出席であったと挨拶。続いて平成二十五年度の当番幹事25回生が登壇、紹介される。代表して石黒俊一郎氏の挨拶。グリーククラブ指揮

で逍遙歌。これも初の趣向。はじめての人も含めて大合唱の輪が出来た。続いて富田光生氏（大56）リードによるエールの演出で彦根高商校歌を一齐に高唱。更にエールの作者の一人、滋野輝彦氏（大17）ほかの関係者でエールをリード。会場の雰囲気も最高潮に盛り上げる。

最後に中辻喜蔵氏（本21）が挨拶、三三手拍子も全員の手がぴたりと一致して午後八時過ぎ、惜別の情と再会の約束の混じるなかに総会が終了した。

平成二十三年年度収支報告  
○財産目録（単位円：以下同じ）

現金 一一、一八四  
普通預金 九九五、〇〇〇  
郵便預金 九七四、一七八  
定期預金 一、〇六〇、〇〇〇  
合計 三、〇四〇、三六二

○貸借対照表  
【借方】  
現金預金 一、九八〇、三六二  
基本金引当預金 一、〇六〇、〇〇〇  
未収金 四〇、〇〇〇  
合計 三、〇八〇、三六二

【貸方】  
前受金 六九三、〇〇〇  
未払金 一〇〇、〇〇〇  
基本金 一、〇六〇、〇〇〇

繰越金 一、二二七、三六二  
合計 三、〇八〇、三六二

○収支計算書  
【支出の部】  
総会費 一、八六〇、三四五  
運営費 一〇五、六六三  
印刷費 三八八、九七〇  
通信費 三八三、一四九  
ホームページ費 一三三、七九七  
編集費 一〇〇、〇〇〇  
事務用品費 七、二六六  
交通費 六〇、三八〇  
雑費 七〇、〇〇〇  
次年度繰越金 一、二二七、三六二

【収入の部】  
計 四、三三七、八三四  
年会費収入 一、四五五、〇〇〇  
総会費収入 一、四六六、五〇〇  
寄付金収入 一〇〇、〇〇〇  
新聞広告収入 一七九、三七〇  
本部活動助成金収入 一三五、〇〇〇  
受取利息 三七九  
雑収入 三、〇〇〇  
前年度繰越金 九九八、五八五  
計 四、三三七、八三四

平成二十四年度収支予算書  
【支出の部】  
総会費 二、一〇〇、〇〇〇

印刷費 四〇〇、〇〇〇  
通信費 四〇〇、〇〇〇  
運営費 一〇〇、〇〇〇  
ホームページ費 一五〇、〇〇〇  
編集費 一五〇、〇〇〇  
交通費 七〇、〇〇〇  
事務用品費 一〇、〇〇〇  
雑費 五〇、〇〇〇  
次年度繰越金 一、二三四、六六二  
計 四、六六四、六六二

【収入の部】  
年会費収入 一、四五〇、〇〇〇  
総会費収入 一、四五〇、〇〇〇  
寄付金収入 一、四五〇、〇〇〇  
新聞広告収入 二〇〇、〇〇〇  
本部活動助成金 二二二、〇〇〇  
雑収入 五、〇〇〇  
前年度繰越金 一、二二七、三六二  
計 四、六六四、六六二

【成年後見制度】を聞く  
最近めきめき売出し中の女流講師『神田織音』さんをお招きして「成年後見制度」を判りやすく語って頂きました。本企画は、当番幹事が知恵を絞ったメインイベントでありました。

軽快なお囃子に乗って会場に特設された高座に上がった神田さんを見て、美人に弱い陵水会員一同硬く張り付きました。釈台を前にして張り扇を持った神田さんの美しさに完全に圧倒され、寄席の雰囲気よりも講義を真面目に聞くが如き、陵水会員の知的レベルの高さを見せた会場でもありました。

講話のテーマである「成年後見制度」は、認知症や知的障害などで判断能力が不十分な人に対し、財産管理や福祉サービスが適切に行われるように代理人を定める制度で、講話は三話に分かれており、一、認知症の老姉妹が被害にあった住宅リフォーム詐欺事件や、二、親族による預貯金遣い込み事件、三、両親亡き後の障害者の生活など実話に基き迫真の演技で出席者を魅了しました。



講話のテーマである「成年後見制度」は、認知症や知的障害などで判断能力が不十分な人に対し、財産管理や福祉サービスが適切に行われるように代理人を定める制度で、講話は三話に分かれており、一、認知症の老姉妹が被害にあった住宅リフォーム詐欺事件や、二、親族による預貯金遣い込み事件、三、両親亡き後の障害者の生活など実話に基き迫真の演技で出席者を魅了しました。

（編集部 宮野幸雄）

# 総会の司会を担当して

平良 友枝 (大57)

この度の懇親会では、当番幹事の桶川先輩と司会を務めさせて頂いていただきました。大役を仰せつかり、大変緊張いたしました。滋賀大学経済学部OBのカラーと結束力の強さを再確認でき、とてもよい経験となりました。世代の垣根を越えて、共有できる時間があるということ、大変幸福なことだと実感いたしました。

初めての試みだった「逍遙歌」大合唱の際、会場が一つになって斉唱できたこと。私と同期生である富田光生君がエールをきった際、ヨット部の大先輩方全員が壇上上がり、サポートして下さった事。若手として温かな愛情溢れる先輩方に恵まれていることを肌で感じ、大変嬉しかったです。

また私たちが受け継いでいきたいと思えました。このような貴重な機会を与えて下さり、又サポートして下さいました、当番幹事の諸先輩方、東京支部幹事会の皆様にご心からお礼申し上げます。

朝日レガッタヨット部OBの活躍



二  
十

盛会のもと乾杯



ヨット部エールの高唱



四  
年

新入会員の面々



二十五年度当番幹事



総  
会

大先輩のテーブル



逍遙歌を高らかに



寸  
影

二十四年度当番幹事



平成二十四年度総会において、「東京陵水」創刊一〇〇号記念論文の募集を発表し、論文提出を募りましたが、十月末締め切りまでに応募寄稿されたのは、中西三二氏（大5）「老年期なれど生涯現役―私のセカンドライフ」と田中和夫氏（大18）「これからの同窓会活動を考える」の二編でした。二編とも論述者の体験を通して説得力のある内容でした。当編集部スタッフで鋭意検討させて頂いた結果、「両作品を「佳作」とさせて頂き、それぞれに賞金として五、〇〇〇円をお贈りすることにしました。応募頂いたお二人には深く感謝します。

（東京陵水編集部）

## 老年期なれど生涯現役

### ―私のセカンドライフ

中西 三二（大5）

これまでに歩んできた私の人生は大きく分けて、三つのラウンドに区切ることが出来る。第一ラウンドは生れてから学校を卒業するまでの期間であり、第二ラウンドは組織の一員となつて定年を迎えるまで。そして第

三ラウンドが定年後の人生である。

この第三ラウンドに自分の人生を価値あるものにするか否か、その総仕上げのチャンスがあり、此の自作自演の生活で自分の生き甲斐を見つけて自分自身の人生を構築する必要性が生じてくる。

定年後の生活に生き甲斐と健康の二つだけについて恰好よく行っている人が多いが、自分の考えている生き方をするには、経済の方が不安であるということは往々にしてあり、これを軽視していると生き方計画は崩れてしまう。

したがって、セカンドライフでは生き甲斐、経済、健康の三位一体のバランスの良い生き方が老後の明暗を分ける鍵になると言えよう。この三者のうち、どれか一つ欠けてもセカンドライフは不安定となり、パラダイスの実現は難しい。註

そこで、日常生活に自分の生き方の哲学というか、あるいは生活信条でもよい、それを柱として日常考え行動するの、多少の例外の有無を問わず、凡そこの範囲でいくという「自分のフェアウェイ」を決めて、このステージ上のフェアウェイ一杯

に主体的に生きること、自分の人生を完結しようと思ひ、これまで私の体験を通して、生き甲斐と経済、そしてそのベスなる心と体の健康について、次のようにマイ・フェアウェイを設定し、日々の生活を営んでいる。

### 一、地域社会への貢献

現在、週の火、木の二日間、公益社団法人に勤務し、受託事業の未収金管理と地場高齢者の就業支援活動に参画。これまでの経験を活かして若い職員に負けない輝きのある仕事をすることが出来るので、大きなプラスになって居る。しかし、このような仕事は生き甲斐を中心にしたものと割り切り、心に余裕を持つて取り組む事が大切である。よい仕事をするには工夫も必要になり、そのこと自体が面白いとともに、緊張感も与えてくれるので、ストレスへの耐性も自ずと生まれてくる。

### 二、良い趣味を持つこと

セカンドライフの特権は豊富な自由時間を持つている事である。かつて、私は日本囲碁連盟カレッジの囲碁学苑に通い、黄孟正九段の指導を受けていたが心悟とは程遠く、せめて宣えは囲碁により好友、人和に恵まれ

教訓に助けられた事が、私の生活にどれほど心豊かにしてくれただことか計り知れない。

しかし、仕事や囲碁のクラブ活動をしても、行事以外は自分の裁量で時間割を組むことが出来るので、この時間を利用して家内とJAL PAYSのヨーロッパ旅行やJR東日本ジパングフルムーンの日本一周旅行に参加したが、私自身自由でふらつと行つて見たい土地の自然な

り、人々と触れ合う旅が好きなので、「東急ハーベスト」と「ジヤパン・トータル」クラブの会員資格を取得して、愛車を駆使し、毎月一度、このリゾートホテルで家族と特別メニューを組んで楽しんで居る。特に囲碁やゴルフのインフォーマル・グループのメンバーとこの会員制のリゾート・ホテルを利用するのが何よりの楽しみである。更に大好きなゴルフは優先して私の生活カレンダーに組み込み、月一、二回ほど近隣の仲間同志でプレーし、今でもライバル意識をもつて、飛ばしに果敢にチャレンジしている昨今である。

### 三、余暇を利用すること

今日の長寿社会では病気になる前に診察を受け、病を早く発見する予防医学の時代に変わり

つつある。自分の体質や健康状態、性格等掛り付けの医者がいて、適切なアドバイスを得れば心配する事も無いので、私は大病院の内科と歯学部付属病院の歯周科で診察を受け、気軽に主治医と相談し、適切なアドバイスを貰っている。老化は歯と足腰にも起因することから、主治医の勧めもあり、私は近くの赤塚公園でウォーキングを始め、概して隔日に五千歩を目標として、歩幅を広く腕を上げ、肘を曲げ前後に振つてさつさと歩く自分なりに作り上げてきた「私にモダレーション」な運動に心掛けて居る。

更に飲食を楽しみ、生きていくことに喜びを感じることも私の健康に欠かせないものの一つであり、大切なのは飲み水は天然水、食物は「よい食物」を「バランス良く」「腹八分」、しかも「良く噛んで」食べることである。そして、豊かな人生を探究する一助として、以前私は浅間苔洲の「苔洲流吟詠会」に所属して竹内療師匠に詩吟を習っていたが、ひとたび吟誦すれば心身ともに爽快となるので、未だに吟魂躍如として唸ることがある。又、重要な余暇の一つに手先の訓練と記憶力の維持、養生

を意図して、就床前に日記をつけることとしている。

以上これまでいろいろと駄弁を弄したが、人生八十年時代と言われる長寿社会になり、私のセカンドライフが「至高経験」というくらいこれほど楽しいものだとは思ってもみなかった。

しかし、人生の幸、不幸は自分の心が決めるもの。心身共に健康であり、歳相応に、そして自分相応に節度があればよいのではないかと思っている。私たちは一人ひとりが異なる使命を持つ

## 「いつれからの同窓会活動を考える」

田中 和夫(大18)

OBの方々にとっては、今まで企業戦士として、あるいは自由業として経営推進に戦々恐々として立ち向かい、参画され、多大なる社会貢献をされて来られたことと思います。

その功績や経験は計り知れないもので、良きにつれ、悪しきにつれ、それを後世の方々にお伝えし、その捕らえ方は千差万別にせよ、少しでも人生の歩み方の一助に、参考にしてもらえらるなら、我々OBにとっては誠に有難く喜ばしい事だと思っております。

って生まれ、それが何か自覚できた時、脳内モルヒネが出て、この上ない充実感とバイタリテ

イや前向きな思考力をもたらしてくれるのだと信じている。

これからも「頭」と「体」を忠実(マメ)にして何事にも一生懸命に、そして毎日プラス思考で生活し、私の目指している最終ラウンドの卒寿まで、元気で生き続けたいと念願している次第である。

註 同期生某の「サラリーマンのセカンドライフ」より引用。

定年後は何もやることなく、目標を失い、居場所も見当たらず、粗大ゴミ扱いされる例もよく耳にします。今まで長年社会のため、家族のために尽くして来たのに、これではあまりに空しすぎる。我々OBの方々はそういうことが無いでしょう

が、少しでも老後を楽しく生き易くする為に、先ずは同窓会の中、これから定年を迎えられる方、あるいはもうすでに迎えられる方々に対し、これからも人生を生き生きと過ごせる為のアドバイスのための情報交換

会や講演などを催されてはと思うのです。

どのような枠のメンバー構成にするかは未定ですが、一年毎に各年度の代表幹事が集まって

情報交換会を行い、情報会、講演会の参考になるテーマを見つけて、同窓生に集まって聞いて頂けるよう働きかけてはと思うのです。要は陵水会総会の縮小版の講演、情報交換会的なものを想定しているのですが。

大上段に構えて、大多数の人数を集める必要もなく、関心ある方々に集まって頂ければと思うのです。

その席では、同期の方々はお互いに声をかけ合って集まる場を増やせるでしょうし、学年が違っても顔見知りになり、また新たな同窓会活動も芽生え、発展するかもしれません。要は何でもいいから、何らかのアクションを起こさなければ事は始まらないのですから。



彦根という地で、縁があって学生生活を送り、その良き思いを胸に今まで歩んできた訳です

から、皆格別の思いを持つている筈です。働き盛りの時は、心では思ってもなかなか会う

こともままならず、OBになっではじめて心身共に余裕もでき、これを機に、更なる同窓親睦を図りたいと思っっているのは私だけでしょうか。

人との出会い一つ一つに有難さを感じ、そして周りに支えられていることに気付いただけ、感謝の思いは深まるのでしよう。

彦根の地で学生生活を送った、というその心根でもって、今まで多くの先輩、後輩、そして同期の方々とも交友を図り、時には生きて行く為のいろんな指針を感じ取った方も多かろうと思います。

これからもその出会いを大切ににし、いい出会いだったと思える為には、自分が苦勞して、その出会いを育てなければならぬいと未熟ながら痛感する次第です。私は皆様と同じように彦根を故郷と思い過ごしてまいりました。愛情と感謝の気持ちを持つて。

人はそれぞれに自分なりの信念を持って生きてきていると思

います。でも、その信念は人に押しつけるものではなく、自分の生き方に表わせばよいと思うのです。

一休禅師の言われた「融通無碍の境地」というのがあります。世間のしがらみも、親戚の迷惑も気にとめない、すなわち、世間のものさしではなく、自分のものさしで日々を生きて、という伝えです。私もこの思いで生きて来たような気がしますので、全くもって後悔などなく、

どんなことをも全てを素直に受け止め、人生を謳歌し続けてきました。

それが出来て来たのも、偏に彦根での学生時代があったればこそと思えるのです。幼少から虚弱体質であった我が身としては、心身ともに成長も遅れており、高校時代には身長一四八cm、体重三十kgという容体で、運動は出来ず、学校と病院の往復生活で、いろんな症状を心身共に患い、全学生中、唯一『栄養要注意』というレッテルを保健検査の結果言い渡されました。人一倍睡眠をとらな

いとやっていけないほどで、宿

題ですらする時間が無いありさまでした。医者からは働くことは無理で、寿命は五十歳くらいだろうと、親に伝えていたのを秘かに聞いてしまったことを想い出します。

それが、彦根の大学では、誰でも運動クラブに入ることが可能で、この機会を逃がせば一生、身体を動かす喜びを味わうことが出来ないと思いい、素晴らしい先輩のご加護のもと、血を吐き、度重なる腹痛に耐えながらも、人並みに走れないことを案じてか、最後列に付き添って温かく見守って頂いた。その甲斐あって、卒業時には人並みの体力を培うことが出来、就職も出来たのです。

社会人になっても背丈は伸び続け、二十歳台半ばには身長百八十cm、体重七十kg強となり、今だに体型は全く変わることがありません。

これも神様からの思し召しなのだろう。

お陰で心身共に強くなり、人並みの会社人生を全うでき、医者に言われた五十歳の寿命はもうとうに過ぎており、拙著《戦友妻》にも記しましたように、五十歳代で病気による若死にも危ぶまれた身としては、老後が

『ある』こと、そのものを先ずは幸運としなければならぬと思えるのです。彦根生活が無ければ私には、老後という、これからの素晴らしい人生を味わうことが出来なかったかもしれないのですから。

前述の「融通無碍の境地」で処世できたのも、ひとえに彦根時代の賜物とそれに結婚すら考えに及ばなかった私を支えてくれた妻の存在、そのものに勝るものは他にはないのです。

好きなことをしたいなら、嫌な会社をやめても妻が働き、支えてくれると言ってくれたことや、会社の研修をボイコットしたり、組織の有り様に反抗したり、辞職を何度か試みたりもしたが、親身になって温かく見守ってくれた上司、諸先輩の人柄のお陰で働き続けようと思ったのも、松下幸之助氏の精神が脈々と流れ継がれていることを実感できたからに相違ないと今でも思えるのです。

学生時代も、仕事をしていた時も、今にして思えば、何時も大変幸せな場所に身を置いていたような気がしますが、ただ今の現在がまさに最高に思えるのです。

好きな時に、好きなだけ、好

きなことが出来る、そして最愛の妻と四六時中、一緒に居れる、これ以外の幸せがどこにあるのかと思えるのです。私にとって健康で長生きできるコツはここにあるような気がします。

数年前に夫婦共が同時に大病による死の宣告を受けてから、二人共が生まれ変わったのも、偶然でなく必然と思えるのです。今これほど幸せに思えるのは、二十歳くらいまでの暗い人生に対する神様からのお返しなのでしょう。人は皆、人生は平等に与えられているのですから。

今は、家内と共に、老人ホーム（これは二十年になります）や知的障害者施設（毎週）に音楽を通してご支援させて頂いており、こちらからのパワーを思っていたのが、逆に皆様から勇氣と感動と、そして生きていく素晴らしさの原点を思い返させて頂いております。人のために尽くそうと努めているその時

が、幸せなのかもしれません。それができる身であることに、改めて感謝する思いです。

最近気付くことは、自分本位の物事を見てみると、気にいらぬことばかり起きてくるような気がします。自分の都合を離れなければ迷いのない判断はでき

ないのだと。

自分に対して損と得とあらば、損の道をゆくべきだと、それが結果的には、他人に対しての喜びのタネまきをすることになり、我も他も物心ともに豊かなり、生き甲斐のある世の中と感ずることができるようでしょう。

今からでも遅くないのです。心の持ちようによつて変わるといふことを実践したいものでもあります。

妻がピアノを引き、私がシャソソを歌うと言う恒例のコンサートは二十年以上になります。が、楽しむ心が継続をもち、継続がいつしか真の力を生むのではと念じ、命の続く限りやり通したいと思っております。

そして、画家になりたかった夢は、今、下手ながらも自由に筆を運ばせていることが出来るこの境遇にあつて、達成できたのだと思えるのです。

時間の使い方は、そのまま「いのち」の使い方になり、自分の「いのち」に意味を与えることで、どんな状況でも生きてゆけるのでしよう。

当たり前前に生活できること、五体満足に改めて感謝です。

皆様も毎日を「私の一番若い日」として輝いて生きていって

下さい。明日より今日の方が若いのですから、一日一生のつもりで悔いのない人生を歩もうではありませんか。

決して他人と比較することなく、自分自身を自分の中で最高の芸術品にまで高めなるべく、夢と希望を持って歩み続けましょう。

老いるのは年をとるからではなく、夢を持たなくなつたとき老いるのでしようから。

## 寄稿余話

大澤義隆氏（大15）から論文応募に当たり、その構想を送って頂いた。

①母校成立の時代背景、②高度成長期の高商系大学の躍進、③定員の増加と質的低下、④女子の進出と母校の女子化、⑤陵水会員の男女構成の変化、⑥会員の経済基盤の劣化による会費納入率の変化、⑦陵水会参加OBの減少、⑧男女会員の分化、⑨希薄になった会員の連帯感による陵水会の活力の低下。

このような悲観的な予測に苛まれていた自分の考えであるが、今後の陵水会の発展のためにこの構想をたたき台に新しい指針を定め、会の発展する論をたてて頂ければと期待して提言。

## 現役学生座談会

# 「今日の滋賀大生」

平成二十四年十月二十九日

滋賀大学図書館二階

座談会室にて

かい方などのご様子を忌憚なくお話しただきたいと願います。

○参加者の皆さん。(発言順)

小笠原俊希氏・四回生・社会学

STEM学科・谷口ゼミ・ゼミナ

ール協議会・陵水新聞会。中野

裕美子氏・三回生・企業経営学

科・弘中ゼミ・弓道部。河野翔

司氏・三回生・企業経営学科・

弘中ゼミ・滋賀大学サーフィン。

近藤有咲氏・四回生・企業経営

学科・弘中ゼミ・アイセック。

尾谷文也氏・四回生・ファイナ

ンス学科・久保ゼミ・合気道部・

学生会執行委員会。桑原英司氏・

三回生・社会システム学科・宮

城ゼミ・教職研究会。木村真人

氏・三回生・社会システム学科・

清宮ゼミ・硬式野球部。板倉功

卓氏・四回生・ファイナンス学

科・柴山ゼミ・アイセック。杉

山翔太郎氏・三回生・社会シス

テム学科・柴山ゼミ・陵水新聞

会。

司会「東京陵水」編集部

林史欣・吉田勇夫

送っていますか。

小笠原―出身が愛知県一宮市で

地元から通っています。学費を



イトをやっ  
ています。

授業が五限

とか四限が

終わると地

元に帰って

夜アルバイトの生活が中心です。

試験期間には安定したアルバイト

を休むので、学校に残って勉

強するとか、それでも下宿や寮

には泊まったりせず、地元が好

きで帰ります。地元を生活基盤

として四年間過ごしています。

中野―私も時間がかかります

が、兵庫か

ら通ってい

ます。ほと

んど部活に

時間を取ら

れています

す。試験期間には図書館で勉強

したり、電車に乗ってる時間が

長いのでその間に教科書を読ん

だり、レジメを読んだりして勉

強しています。

河野―京都の出身です。日頃は

京都からの通学で時間がかかり

ます。兄弟が下に二人おり、あ

まり家計に負担をかけたくない

のでアルバイトをしています。

バイトと団体の活動で大学には

よく出ています。授業に出てま

バイトをするか、団体の活動を  
して帰ったら寝るという生活で  
す。

近藤―一、二回生の頃は下宿を  
して、授業とアイセックで過ご  
していました。三回生、四回生  
でほぼ単位が揃ってきたのでバ  
イトでお金を稼いで海外へ行く  
勉強したり、ゼミの勉強に力を  
入れて過ごしています。

尾谷―学生寮に住んでいます。  
通常は専ら課外活動にいますし  
でいます。試験期は一人で勉強  
するより皆で集まってやること  
がいいので、寮にこもって仲間  
と勉強しています。

桑原―働聖寮に住んでいます。  
教職免許を取得していますので、  
他より授業数が多く教育学部と  
経済学部を行ったり来たりで  
す。ゼミに所属しているので授業  
が無い時はゼミの勉強などで図  
書館で過ごしています。

木村―草津市から通いで彦根ま  
で来ています。ほとんど課外活  
動で、それが無い時はバイトで  
す。暇な時は部活の野球の練習  
です。

板倉―県内出身ですが一年の時  
から下宿生活です。一年生の半  
分は彦根で勉強したんですが、  
大学の四年間の半分は海外に住  
んでいました。中国に行ってい

ました。通常はしっかりテスト  
を受け、バイトもしていました。

杉山―余り授業に出ることは好

きでないの、自宅で本を読む

か、海外のどこかにふらっと出

たりで授業をさぼり続けていま

す。ゼミは真面目に出ますが、

基本は好きな本を読むとかアル

バイトをしています。

司会者―読書のことです。よく

学生は生活の多くを読書に費や

しているのではと言われている

が、皆さんは読書にどの向かい

合っていますか。読書の量は、

専門書と一般書との割合など。

中野―大学に入ってからむしろ

本を読まなくなりました。授業

で読む教科書、ゼミで研究で使

う教科書は読んでいます。一般

書はほとんど読まないです。専

門書もあまり読まない。必要に

迫られて読むだけ。一般書は友

達に薦められてたり貸して貰っ

てたまに読む程度です。

木村―ゼミで使う本しか読みま

せん。薦められたら読むんです

が、そんなにたくさん本を読む

友達もいないので、二年前に薦

められたのが最後です(笑)。

読まなきゃいけないんですが、

読んでないですね。

杉山―僕は週に必ず三冊は読む

ら十五冊は読むようにしていま  
す。特に経済学の書物を中心に  
古典をよく読んでいます。専門  
書以外に読みたくなることもあ  
るので理系の一寸眼についた本  
とか、詩集なども読んでいま  
す。

尾谷―パソコンでフェイスブ  
ックや書評など読むことがあり  
ます。著名人が推薦している書  
評を見て、こういう本を読んだら  
自分の力になると思い読むこと  
があります。誰かが推薦してい

る本は読むが、小説等はあまり  
読みません。高校時代には小説  
も読んだのですが、村上冬樹な  
どは高校時代に読んでいます。  
小笠原―読書はあまり好きでな  
いので読んでいません。就職活  
動中に業界分析のために業界に  
関するハウトゥ本、新書版程度  
のものを二、三冊程度読んだだ  
けです。日々本を手取ることに  
あまりないので残りの大学生  
活では経済関係のものとか、古  
典の大学、中庸とかそこまでさ  
かのぼって読んでみたいなど  
思うが、願望で止まっています。

桑原―高校時代は全然本を読ま  
なかったんですが、大学に入っ  
てけっこう読むようになって、  
就職課程を取っているので教育  
関係の本とか、ゼミに入ってから  
先生からいろいろ薦められ

て、経営系、財務経理など。最  
近「ブランドの価値」を読んで、  
その関係の本を一日一冊程度で  
読んでいました。

近藤―一、二回生の頃はほとん  
ど読まなかつたのですが、三回  
生で休学して海外に行き、帰っ  
てから授業の単位に余裕が  
出てきたので、授業に出ない代  
わりに本を読む時間が出来まし  
た。そこで、小説と一般書を半々  
の割合で月に二、三冊は読むよ  
うになってきて四回生になって  
から、卒業論文のために専門書  
経営に関する本を読んでいます。  
板倉―一、二回生の時に、大学  
に入ってからやりたいこととし  
て語学を勉強しようとして第二外国  
語を早く習得できないものか  
と、トエイク関係の本を読んで  
いました。その専門的な事を勉  
強したかったので、三回生にな  
ってゼミに入った時に日本の対  
外関係、領土問題等を調べる機  
会があったので此の関係の本を  
読むようになりまし。今は卒業論  
文に集中していて関係の外国の  
文献を中心に読んでいます。



海外に行き、帰って

移動時間があり、その時間で読  
書することがあります。ゼミの  
ことで専門の経営学に興味があ  
りその関係が多く、一般書はた  
まに読む程度、週に一冊、月に  
四冊程度です。

司会―佐和学長の言う「大学生  
の間は、社会で学べないことを  
学んで欲しい。教養を学ぶこと  
が大切」について感想を仰言っ  
てください。

桑原―教養を学ぶことは大切  
で、本を読むことも関係して  
いますが、本だけでは学べない  
こともあり、時間がある時は図  
書館で、また美術館や博物館に  
行って、絵画など見て高校生や  
中学生の時に出来なかったこと  
を他でしようと、大学に入って  
からこの機会が多くなりました。  
目で見たら、肌で感じたり  
すること、行動することが、教  
養を学ぶことになると思ってい  
ます。

河野―京都から通っているの  
で、読書、教養を身につける、

理論を学ぶ時間が大切なと感じ  
ています。

尾谷―教養は博物館、美術館で  
も得られるとの話もあったが、  
ただ展示されたものを見ただけ  
で終わるのでなく、どういう環  
境で、誰と見たかが大切。見た  
後皆で議論する事で自分だけで  
学ぶのだけでなく、友人らと高  
め合うことも大事です。

杉山―今の大学の風潮として実  
学を大切に、資格を取ると  
か、社会人の話を聞く、社長  
の話や聴くなどに学生や大学が  
シフトしている気がします。こ  
ういう時代だからこそ、役に立  
たないかもしれない虚学といっ  
たものを重視して、教養を養う  
ことが大事と思っています。

中野―本を読んで身につける能  
力とは別に、海外に行ったり国

内を旅しています。見たことの  
ない良いところがいっぱいある  
ので、友人で国内旅行をしてい  
る人がいると、その人の話を聞  
き、いいなと思うと時間のあ  
るうち長期で行ける所を考えて、  
日本の国内を見て回りたくと思  
っています。

木村―友達など喋る仲間が大  
切だと思います。野球部だから本  
を読む友達、教養を分かち合  
える友達が少ない。「肩痛いわ」  
等と言えば喋る相手は一杯いる  
が、「この本面白かったわ」と  
喋る相手はいない。話が出来  
る仲間があれば本のこともなん  
でも仲間が広がっていくと思  
います。

司会―私自身も本を読むこと  
をしなかったが、痛みを分かち  
合える友達、同じ釜の飯を食  
った仲間は、その時は教養が  
無くても実社会に出て時間が  
出来た時に話し合えるようにな  
らなければ、実社会に出てから  
補完しあえる輪になっていく。  
いい友を作って関係を続けて  
行くことが大事だと思います。  
また彦根には近くに神社仏閣  
が沢山あります。京都、奈良  
と合わせていい勉強をする環  
境があります。

近藤―教養は人と人とのか  
かわり合いの中で培うものでは  
ない

かと感じています。一、二回生の内は教養関係を授業でとつてはいたが、興味があると思つて取つたにも拘わらず、全然興味が持てなくて、テストで単位を取るためだけに勉強して、自分

の中で繋がらないものもありました。最近になって友達と関わる中で興味のあることをその人の言葉で伝えて貰うか、そこで自分が感じたことを答えたりすることによって自分の中に入

て行くのだと思ひました。読書は大事と思うが読んだ後自分と誰かと一緒に内容を共有する事が教養に繋がると思っています。



河野—大学生は社会に出た時のことを考えはするし、社会に入つて何が必要かというイメージでは

浮かびます。社会に出てから教養が必要であると言われるが、実際大学を出てみると実学中心になっていて、就職のために資格が必要とか、英語が必要だとか、そんなことで授業を受けることにもなる。こういうことに時間を割いているのが現状。学生の時代に教養を身につけることが必要とされることはそのと

おりで、教養を学ぶために読書などしているが、教養と言われものを大学において授業・研究・などを通して身につけることが出来ないものかと率直に聴きたいです。

司会—今の皆さんは選択するものが昔に比べて多いと思ひます。そこで中高生から、大学では何を勉強するのかと聞かれたら、どう答えますか。

河野—学習塾をしているので小中生からよく大学は何やってると聞かれます。その時は自分が好きなことが出来る。好きな勉強が出来るかと答えます。自分も経営学が好きで企業経営研究会に入っています。中高生では、

例えば高校時代、地学など興味が無かった。自分のやりたくない科目も付いてくるが、自分の好きなことが大学では学べる環境にあります。

近藤—大学の勉強は課題とか問題について自由に考えられるところじゃないか。一、二回生の頃は決められた単位を取らなければならぬので、取りたくないものも取らなければならぬか。経済学は自分で選んだ単位の中でしぼられたものもあつたが、興味があつて取りました。三、四回生でゼミに入ると自分

が期待していた先生のもとで、自分と興味のあつた友人、仲間たちと一緒に研究を進めるといふことで、そこが高校生までの勉強と違い、自分の興味あることを一緒に考え方を持つた仲間と課題を議論できる事だと思ひます。

木村—ほとんど野球をやつていて授業も出ない。自分のやりたいこと、したいことをやるというこ

とは他の人と一緒です。授業はほとんど真面目に受けていないんですが、一年に二個くらいは好きな授業をうけています。それだけは真面目に受けよう、要するに好きなようにできることです。

杉山—私は一年で単位でつまずいています。中野—自分の好きなことが楽しんで勉強が出来る。高校の時は数学が嫌いでした。入試のためだけに無理やり勉強させられてる感じが強かったが、大学では経営について興味があつたので経済学部に入りました。入つてからも経営系の授業しか取つてないとか、自分がこれが取り

たいとか、この話を聞きたいなと思うものを取つているのど、無理に勉強させられている思いがありません。高校に比べて楽しく授業を受けていると思ひます。

板倉—高校までの勉強は画一的で浅い勉強の仕方、教育方針だと思ひますが、大学だと垣根が外れて自分の勉強したいことをする機会が与えられています。大学を出た後、自分の個性にどういふ思想があつているのか、どういふ方向に進んでいきたいのか、大学のあとをしつかりと人

生を考える機会ではないか。勉強の枠を広げて考える、大学はその機会が与えられる所ではないかと思ひます。

杉山—何をやつても勉強だ、自分がしようとしていることが勉強と思つています。大学で自分の好きなことを見つけて一人で勉強する事も勉強だが、外に出て友達と悪い遊びをするのも勉強。全てのことから学ぼうとすれば全然興味もでてきます。それは高校とは違う、自分が好きにすることを選んでできるのが大学生と思ひます。

尾谷—杉山君の話を受けて、自分が成長する向上するためにどうすればよいかと、勉強する場所が大学。勉強することは当たり前だし、今自分に何が必要かを考えてどういふことをすればいいかの方法論と、今与えられている環境で何かできるかを考え、例えば中国に行くとか、今自分にとってこれが必要だといふことを勉強する場所が大学です。

司会—強制された勉強から自主的勉強へ、ただし何が自分に向いているかを決めて行くのは難しいことですね。

小笠原—高校の勉強は大学入試の勉強でした。大学で学んだということはおしゃべりに関連してきます。大学で話す事は経済学の知識で議論する事も多いんで、学んでいることで人に話せる感性を身につけ、知識応用を身につけるための勉強です。

桑原—中小校で勉強しなかつた。大学の勉強は自分で自分をデザインすることかなと思ひ

た。大学の勉強は自分で自分をデザインすることかなと思ひ

た。大学の勉強は自分で自分をデザインすることかなと思ひ

ます。大学とはの答えが勉強な  
んで、この他の答えは無い。答  
えが無いものに取り組み、知識  
を大学の期間で蓄積し養うため  
に勉強をする。勉強の枠組みは  
机上だけの勉強じゃなくて実生  
活において学ぶことが多い。意  
識さえあればすべてが勉強にな  
ると思う。中高生と違う所は机  
上だけではないということだ  
す。

司会—今、勉強の向上と言った  
ことで大学の具体的な動きはど  
うですか。

杉山—やはりすべての活動が就  
職活動にあります。大学という  
よりは就職専門学校化してきて  
いると思う。最終地点がそこで、  
そこにたいしての以外のもの  
は、極力削いでいる感じが大学  
側にも学生側にも見受けられま  
す。

司会—かつて就職難の時代、就  
職のために滋賀大学を受験した  
ひとも多かったと思います。

経済学部としての学究的態度  
を磨くためには、ゼミナールで  
の学習が必要ですが、そこでひ  
とつ。

桑原—宮口ゼミに所属して財務  
経営を通じた企業分析を研究し  
ています。ゼミに入ってからよかつ  
たことは毎日ゼミ生と会って、

勉強したり談話をしたりするこ  
とです。ゼミに来ている人は、  
人生観が相通じる人もいる、マ  
ニアックの人間がいたり、自分  
に近い人がいたり。どちらかと  
言えば遠い人間が多いのです  
が。人と自分の将来のことに関  
わって、出会える場が沢山出来  
る。忙しいなかで協力し合っ  
ています。

小笠原—谷口ゼミに「かもんち  
ゃん」というキャラクターがい  
ます。二〇〇七年に誕生した滋  
賀大学のマスコットキャラクタ  
ー（井伊掃部守）で今年五歳の  
誕生を迎えます。当時の谷口ゼ  
ミの学生がデザインをして、名  
前は公募で決めました。このキ  
ャラクターを使って障害者支援  
をしたり、製作の生産管理や販  
売の手伝いなどをサポートす  
る。中にはマーケティングでこ  
のキャラクターを使って学びた  
いという申し出もある。キャラ  
クターで地域に触れ、キャンパ  
スを飛び出そうというゼミのイ  
メージですが、このゼミで学べ  
る、地域で学べるということだ  
す。

ゼミを選びましたので充実をし  
ています。今は三回生のサポー  
トをしています。彦根にもゆる  
キャライベントがありそれにも  
参加して、此の祭りのボランテ

イヤスタフを任されているこ  
ともあり、そういうゼミなので  
滋賀大の中でも変わったゼミとの  
実感を持ちながら活動していて  
楽しい。やってみるとはサーク  
ルのようです。

尾谷—久保ゼミナールに所属し  
ています。教授は実業界出身。  
ゼミでグループワークする時も  
質問の仕方だったりプレゼンス  
する力を重視しているように  
です。

杉山—柴山ゼミに所属して虚  
学、教養を学んでいます。主に  
地政学に似た各国のパワーバラ  
ンス、世界の情勢の分析したり、  
日本の国内において産業とか領  
土であるとかの問題にアプロー  
チして皆で研究するゼミです。  
そういうことが自分は好きなの  
で積極的に参加しています。

板倉—柴山ゼミです。杉山君が  
言ったよう  
な研究がし  
たかった。  
テーマはゼ  
ミに入って  
調べまし  
た。ゼミの研究活動には興味  
があります。ゼミの人数がかなり  
多いので、どういう考えでゼミ  
に来ているか、意識の差が個人  
個人ばらばらです。ゼミは少数



調べまし  
た。ゼミの研究活動には興味  
があります。ゼミの人数がかなり  
多いので、どういう考えでゼミ  
に来ているか、意識の差が個人  
個人ばらばらです。ゼミは少数

五人とか、十人が理想だと思  
います。一人一人と深く研究につ  
いて語ることが出来るから、二  
十人だとこれが出来ない。少  
数でやりたいと思っています。  
中野—弘中ゼミです。基本的  
にグループワーク。自分達でテ  
マを探し疑問を見つめる。仮説  
を立ててそこに至るまでの過程  
を立証していく。最初は何を考  
えたらいいか、何処に論点を持  
て行ったらいいか判りません  
でした。グループワークをやっ  
て行った中で、自分とは違う視  
点で疑問を持つ人がいたり、提  
案を出す人がいたり、自分と違  
う視点で物事が見られる人が  
いる。などでゼミに魅力を感じ  
ます。少人数だから先輩と話し  
たりして貰って就職活動でも支  
援して貰いました。いいゼミで  
す。

木村—清宮ゼミです。十五人の  
うち十二人は体育会系です。企  
業経営ですが余り経営学が好  
まない。クラブ関係で今のゼミ  
が一番良かった。その中で企業  
経営の話で例えば「チャネル」  
を知らないなんて、などの話も  
あり、経営学を知らない人も  
ゼミに居て……、私も話す事  
があまりありません。

近藤—弘中ゼミで経営学を学  
ん

でいます。ゼミの二年で研究を  
完結するのは当然不可能です。  
ちょっとかじった程度では、議  
論して相手に判らせるか相手に  
判り易く理論が説明できるかは  
難しいが、グループワークを通  
じていますが、最終面接で、経営学  
ゼミを理由にこの表で経営分析  
して下さいと就職面接で聞かれ  
たので、その時ゼミは経営学を  
学ぶだけの場ではないなと思  
いました。

河野—少人数で、三回生九名で  
別れての研究活動が主になっ  
ていますので、一、二回生で学  
んだこととゼミで学んだことを  
加えて、日頃の学習をどう考  
えるかまた研究を通して、それ  
までインプットしてきたものを  
どうか等学べるので楽しく勉強  
しています。

司会—大学は学習や課外活動を通じて、良き友人、終生の親友を得る所などとも言われます。皆さんの友人との関係や人数はどのくらい出来たかお話し下さい。

板倉—課外活動やゼミが多いかなと思います。後は個人的な留学を通して知った日本人の友達、留学がきっかけで現地で得た友達が数では多いかなと思います。



杉山—友人は数は判らないが授業中に隣に居て話しかけたり、新聞会の活動を通じて知り合った

り、後は新聞会の仲間との付き合い、学生委員会に出席してそこでの交流で知りあったり、友人は多い。何処までを友人とするかの線切りが難しいけれど、一般的に見て四十人くらいはいます。



尾谷—おなじ目標を持って、ゼミや部活動などで目的に取り組んでいる人間は友達になり易い。強

いつながりが持てると思えます。単なる知り合いは浅くて嫌いな感じがします。部活動が基本です。互いの下宿訪問は新生の時は右も左もわからない時で、自分は九州出身ということもあり、いろんな人に助けて頂きました。大学が始まってそれぞれの所属に移ると、そちらの方が強くなって、寮でも希薄化してくるような感じがして、一年生の時よりも現在ではつながりが弱くなってると思います。

小笠原—色々コミュニケーションに属しているので広く浅く友人があり満足しています。広く浅くで、杉山も入学式から一緒なのでこういうのは珍しい。新聞会に入っているので広く浅く知り合うことがいいと思っ

桑原—経済と教育を行ったり来たりしているの、教育学部にも友達が多い。個々のグループでの仲間とのつきあいがあ

経済から一緒に教育に行ってる友人もあります。ゼミでは仲間が深いんでここでも友人が出来て

河野—ゼミとサークルに友達が多い。人数が少ない授業であれば話す機会もあります。近藤—ゼミとサークルで出来た

友達をきっかけに、仲間を作る。授業友達同士での喋ることはないんで。何かで動きがあったという時に周りの人と話をします。

司会—学生食堂で昼食を取りましたが、特に今日は女性が目につきました。男女の友人関係はどうですか。(笑)

中野—友達の数としては男女半々くらい。アルバイトなどもある、男の子は学校に来ないんで、学校に来てみると男女半々くらいに感じます。図書館に来てみると男の子の姿も目に付き、やはり学校だなと感じます。私は男の子と付き合えるので、友達と出かけることもあります。

木村—何処までが友人か判らない。付き合いはクラブ活動か、ゼミくらい。男女は二対一か三対一くらいです。一世代前と比べて友人の関わりは希薄化しています。すぐ友達になるが深入りしない。昔の人に比べて。

司会—昔の友人関係ではプライベートなど突っ込んで聴いたこともありました。今の人達は友人のことをあまり知らない。どうしても表面的な浅いつきあいになりますね。近藤—部活とゼミと学生会の活

動の中の友達がほとんどです。一回生で授業で一緒になった人もいる。体育会にはいつていましてから男子が多いと思います。部内では恋愛関係等意識していません。

司会—学生生活の多くの部分を占めていますが、アルバイトのことをお聞きします。

木村—飲食関係の仕事です。居酒屋さんと今は回転ずし、彦根にはアルバイト先は結構あると思う。充実していると思う。学生も多いので店も多い。業種も

尾谷—アルバイトに人が多い場合も、それら人の上にいる管理者が、四回生にもなった人をボロ雑巾のように使う店が若干あり、人の下で働くということが、悔しさというか、ハングリー精神を持ってより向上心を高め、一生懸命勉強して、いい管理者になってやろうと思

板倉—基本的には必要に迫られてやる人が多いです。アルバイトをすることで何か得るとい

うわけではない。何かをするためにお金を稼ぐのがアルバイトと思っ

桑原—長期、短期のバイトで、長期は喫茶店で三年程続けます。短期は花火大会の世話、駐車場の整備、宅配、試験監督、短期のはこまめにして来

河野—一回生の時から同じ学習塾で働いています。お金を貯めて、海外に行くことが多かった。仕事にも慣れ、バイト先では正社員に文句を言うようになってきました。新人で派遣されて来た正社員など、効率的な仕事のやり方を考えさせる。また子供たちに勉強を教えるのも、自分の勉強にもなり、教え方を通して自分の考え方を高める事が出来ます。

中野—クラブと部活と授業で時間が無く一、二回生の頃はバイ

トが出来ませんでした。三回生になってから単位が揃ったので、時間が出来て、今年九月からバイキング(テーブルの整備)のバイトを始めました。まだ始めて一カ月、前に目を向けられなくて食器の補充、社員や年長のバイトに色々言われ難しい。もう少し周りが見られる目を養わなければいけないと思います。

近藤―焼肉屋、学習塾、家庭教師などを転々としています。バイトをしたくなくて時間が勿体ないと考えている。しかし得られることも多少なりはある。自分を抑えなければならぬ時、働くとはこういうことか、と真剣に考えることもあります。お

金を貯めるために週五回も六回も出て時間を費やしているのはどうかと思います。アルバイト口は男女で差が無いでしょう。杉山―アルバイトは大嫌いで、やりたくありません。アルバイトから学ぶことは何一つない。学生にはアルバイトなどさせるべきでないし、もつと国が支援すべきだと思う。反面金を稼ぐべきだと思ふことは大切である

と思います。学生のことを考えるのであれば、バイトは貴重な時間を安い価格で買いたたかれ

ているので、僕は許せない。(笑)小松原―親から自立したい気持ちがあるので、学費も自分で払っています。ほぼ全てのものを大學生になって自分でやりくりしたいと考えています。唯一実家に間借りしているだけ。バイトはラーメン屋、焼肉屋、生協と三つ続けている。皆で働くとか、時間の大切さ等を感じているが、また仕事にもなれますので。

杉山の気持ちもわかるが、アルバイトを充実した気持ちで出来ています。

司会―今までの内容と重なるところもあると思いますが、所謂課外活動として活発に学生生活の一部を堪能していることと思

いますが。河野―課外活動の理由は、自分の勉強したことを商店街、商

工会議所、市役所など地域学外で仕事をするので、その人達と一緒に仕事をするのが面白い。目的はこれら職場に関わる仕事をして何かしら成果が上げれば自分として満足。達成感が得られるし、成果が見られるので楽しくやっています。

近藤―課外活動の理由としては勉強以外のことに現在集中したいと、海外で学習活動をして行く事にしました。その中で我慢



できなくなつたつて止めたものもありました。海外に行くという目的は満たされたが、続けなければならぬ事もあり、結果として続けられなくなつたものもある。後悔もしています。

木村―野球が好きで大阪から大

学に came ましたが、団体行動は苦手の方です。自分は固定観念に縛られる所があり、「これはこうしなきゃあかん」といった頭の固いとあります。新しい発想が生まれにくい。しかし面白い事、おもしろいことも出来、おもしろいことをしたと言ってくれる友も居ます。

中野―弓道部に入っています。通学に時間がかかるからと言って、部活に入らないのは四年間つまらないだろうなと思って、

弓道部で新しい生き方をしよう

と入部しました。自分の高校には弓道部が無かったので面白そうに感じました。入って得たことは幹部で一年間活動して、責任を持つことであつたり、後輩に対して模範になるよう意識した行動をしたり、恥ずかしく思

うようなことは自分でしてはならないという責任のようなものを感じました。

板倉―海外で一年間留学してき

ましたが、理由は高校の時から外に出たかった、大学に入って自分のしたいことをしようと思つた事でした。そこで得られるものは非常に大きくて、自分の国のことにあまり興味が無かつたが、留学を通して自分の国のことを考えざるを得ないということ、得られるものが沢山あつたと思つています。

杉山―陵水新聞会に入つたきっかけは、自分には文章力、表現力が無いなど感じる事が一回生の時にありました。それを機会に公の場合に自分の意見を表現すること、客観的に物事を分析して判断する能力が得られるのではないかと思つたことで

の意見を表現し、的確な判断と

考えられることを求める社会問題、政治問題をあつかうようになつたつい最近のことです。これからそういうことをして行きたい。自己満足というか自己表現の場として新聞会に所属しています。

尾谷―理由や目的は所属してから付いてきました。一回生の時にこの人達についていたら間違いないなど肌で感じて入りましたし、ゼミも学習の上でこういう人になりたいなという直感的なものから入つたと思

います。小笠原―ゼミナル協議会と新聞会に所属しています。ぱりぱり働く社会人になりたいと思つて

大学に came たので、就職する事しか考えていないところがあつた。そのために成長したいな、成長とは自分の力を発揮しないと強い部分弱い部分が判らないなと思つたので、学習活動以外から能力を発揮したいと課外活動に入りました。既に就職活動を終えていましたが、思考の応用力とか机に向かつてすること

が弱いなと思つて、四回生から新聞会に入りました。自己成長にこだわつて課外活動をするこ

桑原―最初の二年間を無駄にして仕舞いました。大学に入った目的の一つに体重を減らすということで、一年間で二十キロ減らすを目標にして、これを達成しました。そこで得たものは限界を超えようとするので日々苦しい生活だったことです。食事制限もあり、精神的に参ったこともありました。限界を超えてするのは無理でした。三年になつてから教職関連もあつて教職研究会に入って、彦根西中の子供達に授業の質問受け付けのようなチューターをやらして貰い、自分の目的意識をどう子供に判り易く訴えるか、というところが磨かれていったと思います。

セミナーに行ったりします。医科大学の人と話したり。教師塾に行つて同じ教職を目指している仲間とディスカッションしたり、懇親もあります。

小笠原―生活基盤が地元であり、地元で学生団体を立ち上げ運営しています。バイトを親から自立したいとやってきているので、忙しいこともあつて、余暇と改めて感じたことがあまりありません。学生団体のメンバーで打ち上げ、こちらで学生総会が終わつた後の打ち上げなど、ストレス発散に似たりフレスシュをしています。余暇を感じることもなく、バリバリ働く社会人になる準備ができています。

尾谷―学生会に所属して、環琵琶湖コンソシアムという、琵琶湖の十三大学でつくるコンソシアムですが、九月に琵琶湖の沖島に一泊二日の研修に行きました。それが他大学とのかかわりです。焼き肉が好きなので、近くにできた焼き肉の店に週一でお腹いっぱい食べられるのでいいです。

板倉―一年間海外で働いていて、社会とのつながりが出来たことがおおいかった。中国にいたが食事が不味くて油濃い、自分の口に合う店を探したりしました。見つけるとその店にばかり行く。遠出をして現地の汚い店に入り美味しい、不味いと言つたり、そんな余暇の過ごし方でした。

河野―地域貢献活動で同じような団体が全国の大学にあり、その関わりで他の地域との関係性もあつて意見交流、勉強会などしています。余暇は酒を飲んで話すのが好きで、地元京都の友達と酒を飲みに行つたり、観光が好きで一人で観光に出る。京都は見ると困らないからいろいろ遊びまわっています。

木村―滋賀大学はたいして好きになつたわけではないが、お世話になつたので感謝しています。就職してもそこで骨をうずめるような大胆なことを考え、定年退職してもしっかり生活を送れるように考えて行きたいです。

中野―土日が部活でつぶれていたので一日暇な日はあまりありませんでした。暇がある時は寝ていたり、地元の友人と遊びに行つたり。買い物に一人で行つたり。学外活動では和歌山大学と一年一回滋和戦で弓の交流試合があります。今年は和歌山の事情で出来ませんでした。

中野―土日が部活でつぶれていたので一日暇な日はあまりありませんでした。暇がある時は寝ていたり、地元の友人と遊びに行つたり。買い物に一人で行つたり。学外活動では和歌山大学と一年一回滋和戦で弓の交流試合があります。今年は和歌山の事情で出来ませんでした。

河野―地域貢献活動で同じような団体が全国の大学にあり、その関わりで他の地域との関係性もあつて意見交流、勉強会などしています。余暇は酒を飲んで話すのが好きで、地元京都の友達と酒を飲みに行つたり、観光が好きで一人で観光に出る。京都は見ると困らないからいろいろ遊びまわっています。

河野―地域貢献活動で同じような団体が全国の大学にあり、その関わりで他の地域との関係性もあつて意見交流、勉強会などしています。余暇は酒を飲んで話すのが好きで、地元京都の友達と酒を飲みに行つたり、観光が好きで一人で観光に出る。京都は見ると困らないからいろいろ遊びまわっています。

木村―滋賀大学はたいして好きになつたわけではないが、お世話になつたので感謝しています。就職してもそこで骨をうずめるような大胆なことを考え、定年退職してもしっかり生活を送れるように考えて行きたいです。

河野―就職活動を三回生から始めています。自分の中で決めて行きたいということをやつて行きたいということです。就職した後でも大学院に行きたいなと思つたら行けばいい、転職すればいいと思つたらそれも考

強させてくれたところかなと思  
っています。

板倉―就職が決まっているので  
そこで何年間か働きますが、ず  
っと働くかは判りません。働  
きながら自分の方向性を考えて行  
きます。滋賀大学は自分にとつ  
て自由な学部だったといえま  
す。制度を利用して海外に行つ  
たり、学びたいことが学べたり、  
友達が出来たりなど、良い所が  
多くあったので自分にとってよ  
い場所であったと思っていま  
す。

杉山―卒業後は大学院に行くつ  
もりです。初めはそのつもりは  
なく、公務員にでも慣れればい  
いと思っていたが、滋賀大学で  
学問に触れて行くうちに、学問  
への関心が深まってきて、就職  
という選択肢もあると思うが、  
勉強したいという気持ちが強い  
ので、就職しても後々後悔する  
事になるだろう、気分的にしつ  
かり働けないだろうと。今は勉  
強したいと進学を考えていま  
す。入学した当初は不本意に滋  
賀大学に入ってしまったという  
気持ち強く、よその学校に行つ  
てみようと思ったこともありま  
した。しかし住めば都で、今は  
滋賀大学が大好きです。とても  
感謝しているのでこれからの一

年半を後輩たちに少しでも何か  
残してやりたい気持ちでいま  
す。

尾谷―四回生で就職を決める事  
が出来て肩の荷を下ろしまし  
た。大学に入った時の気持ち、就  
職する時にはこういう企業に勤  
めたいという初心を忘れたくな  
い。陵水会の先輩方がよく経済  
学部が原点だったと話をされる  
が、僕も同じように「原点だつ  
た」と言える場所にしたいです。  
小笠原―卒業後は地元愛知県の  
企業に就職が決まっています。  
先も言った通りバリバリと働い  
ていきたい。働くのが夢で働い  
ていく中で成長したい気持ち  
があります。大学の経済学部で  
いるんならに会って成長できたと  
思っています。成長できた新し  
い自分に出会えたということが  
自分の中で腑に落ちています  
が、まだ完了形にしたいと思  
います。卒業式の時に新しい自分  
が出来たのだと思えばいいで  
す。

桑原―卒業後は教職と繰り返し  
てきたにもかかわらず、教師に  
なるのはどうかと考えている  
ところです。教職免許というの  
は将来学校を作って経営した  
い、そのためには教職が役立つ  
ようなことにしたいとの考えも  
あります。卒業後就職活動をし

て企業が決まったら、海外に出  
て海外から日本を考えることを  
してみたい。滋賀大学はほくに  
とってホームなんて経済学部こ  
こから教育学部にも行ける、教  
習所にも行ける。ここがあるか  
ら色々な所に積極的に行ける。  
何時でもここはホームであると  
思っています。

司会―皆さんの率直なお話をき  
きながら学生時代を反省してい  
ました。私たちの時代は世の中  
が有為転変で落ち着かない時代  
でした。大きな力で流されてい  
くような感じがありました。皆  
さんの話の中から、かほそいな  
がら時代の流れに杭を打ち込ん  
で、流れの中でどう生きていく  
かを考え、おれは流されないぞ  
と、いう逞しい姿を感じ取りま  
した。後期高齢者と言われる歳  
になっても、人生を前向きに進  
もうという意欲があります。心  
が豊かで、率直で、楽しくあり  
たい。そのもとは滋賀大学で若  
い時代を過ごしたことにあり  
思っています。世の中の事態に  
関心を向け、分析理解する力、  
友達との長い友情の交換、仕事  
への喜びと責任感の保持、今も  
って母校から授かったと感じて  
います。長い時間、率直な良い  
お話を有難うございました。

私がお話をして、感謝と思  
い出の一部を紹介してお悔みを申  
上げます。

### 故・樋口広太郎先輩を 悼む

川本 茂(大1)

去る九月十六日、陵水会発展  
のために多大な貢献をされた高  
商二十一回卒の樋口広太郎さん  
(元アサヒビール社長・会長)  
が逝去されました。

私が東京支部長時代に先輩に  
お願い致し、最も多忙な時代に  
理事長に就任して頂きご苦労を  
おかけしたので、感謝と思い出  
の一部を紹介してお悔みを申し  
上げます。

平成四年六月の第一土曜日、  
彦根で午前理事会、午後評議員  
会および総会・理事会終了後、  
先輩は外出。午後開催前に戻ら  
れたのでご用件でもと質問させ  
て頂いたところ、「私が彦根に  
来たのに地元の小売店の方に挨拶  
しない失礼だから廻ってき  
ました」との返事。寸暇を惜し  
んで、スーパードライという武  
器を片手に破竹の勢いで進むト  
ップリーダーの姿を拝見しまし  
た。

夕方帰途、米原駅で私たち後  
輩がホームに集まっているのを  
発見、「一緒に」と乗車予定の  
グリーン車をやめ、同席されい  
ろいろお話を伺うことが出来ま



ご宴会・ご婚礼・出張料理  
カフェランランドーレ・グリルフクシマ

## 軒養精野

〒110-8715 東京都台東区上野公園 4番58号  
TEL 03-3821-2181(代) FAX 03-3822-1330  
<http://www.seiyoken.co.jp> 年未年始以外年中無休



した。帰宅その後、ビールの送付を受けました。私は陵水会員名簿の発行担当であったので、広告料をいかに多く集めるかにより、陵水会財政に影響するの

で、同窓会員在籍企業に迷惑をかけることも多かったです。先輩に

## こんにちは

塩谷 昌史氏 (大41回)

(しおたに まさちか)

東北大学 東北アジア研究センター 助教を、去る十月十九日(金) 東京にお迎えして、お話を伺いました。



「—ご遠路お越しいただき、ありがとうございます。『東京陵水』一〇〇号記念号に掲載させていただきます」と思っております。

10%以下の時に社長に就任、驚異の大躍進により、その経営手腕は高く評価され、日経連副会長や小泉内閣の経済戦略会議議長、その他多くの公職や文化団体の理事長も引き受けられ多忙を極めておられました。陵水会のことに関しても熱心にお世話頂

部の志望に変更しました。親から、家から通える範囲内の国立大学に入ってくれと言われていましたので、滋賀大学を受験しました。半年、彦根で下宿した時期もありますが、基本的に京都の自宅から通学しました。

と、従来の編集方針を変えまして。当時、第一外国語で単位を落す学生が多くいて、留年者が増える問題が起こっており、それを取り上げました。それまで、英語の先生は入学時に割り振られ、学生は受けた先生を選ぶことはできませんでした。授業の内容は先生により、大きく異なつたので、学生の選択制にしようとして、学生自治会と協力して署名を集めました。その結果、

留学生と知り合い、在学中にマレーシアの友人宅や、卒業後に香港の留学生のお宅に遊びに行きました。

す。

塩谷 過去のインタビュー記事を拝読しましたが、かなり立派な方が出ておられますね。

—年配の方が多いですが、若い方もご登場願っています。今回は、思い切って現役のパリッパリの研究分野の方をと思ってお願いました。お生まれ

は。塩谷 京都です。高校は、京都の洛西高校を卒業しました。自宅から最寄りの駅はJR京都線の「向日町駅」になります。

死亡しました。肝試しをしようとしたのですが、運転免許取り立ての初心者が、その一台を運転し崖下に落ちました。その後、ESSのクラブ活動が停止になりました。その状況を見かねた、ESS顧問の英語教員メルビル先生は、昼食時間帯に英会話のトレーニングをしてくださいます。

—留学生が大勢おられたよう

で。塩谷 入学したのは一九八八年で、日本が丁度、プラザ合意を受けてバブル時代に入っていく時期でした。多くの留学生が日本経済を学ぶために、各国の政府給付を受けて、アジアの各地から日本に留学していました。

—大学を選ばれた理由は。

塩谷 一年生の十一月頃に入り

国からの私費留学生と学内で交流しました。先程触れた、英語

教師のメルビル先生が、留学生を集めて英語だけで議論する勉強会を開いておられたので、参加させてもらいました。多くの

塩谷 高校生の頃は、中学か高校の社会科学の教師を目指して、最初は教育大学を受験しました。しかし、一浪してからは、教育大学だと視野が狭くなるような気がして、法学部と経済学

大原さん(大38回卒)が私の前の編集長で、対外的な問題に焦点を当てておられました。私達の世代は主に学内の問題をとりあげよう

と、留年者が多かったです。例えれば日本の戦争責任の問題でも、国によって温度差が出ます。国

は悪いことやってくれたという人がいる一方、いや違う、日本は悪いことやってくれたという国の人もいます。中国からの留学生は当時学内にはいませんでしたが、台湾とマレーシアの華僑の留学生の方はおられ、中国の発言をしていました。

—ソ連にも行かれたとも伺っています。

塩谷 四年生の頃、ジャーナリ

クーデター直後に

—ソ連にも行かれたとも伺っています。

塩谷 四年生の頃、ジャーナリ

クーデター直後に

—ソ連にも行かれたとも伺っています。

塩谷 四年生の頃、ジャーナリ

塩谷 四年生の頃、ジャーナリ

クーデター直後に

—ソ連にも行かれたとも伺っています。

塩谷 四年生の頃、ジャーナリ

塩谷 四年生の頃、ジャーナリ

クーデター直後に

—ソ連にも行かれたとも伺っています。

塩谷 四年生の頃、ジャーナリ

ストか、学者になることを考え、一年留年しました。どちらが良いか迷ったので、海外に出て考えてみようと思いい、一九九一年の九月から半年間ソ連に留学しました。ソ連に行く直前の八月下旬に、クーデターが起こりました。クーデターに対する市民デモが行なわれ、クーデター派はデモを鎮圧するため、軍隊を出動させようとなりました。市民派のエリツインがクーデター派に勝利した四〜五日後に、ソ連に入国しました。

——その頃からソ連に関心があったのですか。

塩谷 そうですね。入学した頃、ゴルバチョフが毎日ニュースに出ていて、雪解けの時代というか、新しい時代に向かう、世界は融和に向かうような雰囲気がありました。

奇しくも、私がソ連に行った年の年末にソ連が崩壊しました。そこで感じたのは、日本で報道されていることと、現地の情報とが殆んど一八〇度違うことでした。日本人が報道したいことと、実際の現場とは、かなりの差がありました。例えば、日本ではゴルバチョフ(ゴルビー)を高く評価していましたが、ソ連国内では散々な評価でした。

言論の自由が広がり、西側に開けるようになって、生活が悪化したり、インフレが進んだり、生活不安が出て来ましたが、ゴルビーだけの責任ではないですが、ソ連自体が機能麻痺に陥っていました。一般庶民にとっては、食えて犯罪が少ないのが良い生活で、市民生活が崩れた時に体制がおかしくなります。



——ソ連がロシアに変わりましたが。

塩谷 現在ではロシアは食うに困りません。しかし一九九〇年代、ソ連が崩壊した後、プーチンが登場するまでは、かなり厳しい時期でした。具体的にいうと、エリツイン時代には平均寿命が格段に落ちました。

その国のGDPがどうである

うと、平均寿命は、その国の本当の生活水準を表わすと思えます。それが上がるか、下がるかにより、その国の生活水準が決まります。一九九二年から九十七年位の間に、ロシアの平均寿命は約十歳落ちました。乳児死亡率も重要で、その国の衛生状況、医療水準を示します。一九九〇年代に、ロシアでは乳児死亡率も悪化しました。

——何が一番問題だったのですか。

塩谷 ロシアは市場経済に移行したのですが、今まで国有化・計画経済でやってきたソ連経済を、アメリカのアドバイザーとかを招聘して、市場化路線の方向に進めました。市場化を進める際には、ルールの確立が前提となります。法律を守る人々が多ければ自由化路線を取っても良いのですが、ルール無視の状況で市場化を進めると、大変なことになります。市場経済化に無理に舵を切ったため、年率一〇〇パーセントを超える、ハイパーインフレが起こりました。一九九六〜九七年くらいから、インフレは緩やかになりました。

——プーチンは民主的に選ばれたのですか。

塩谷 このままでは国がおかしくなってしまうと、エリツイン大統領がプーチンを押したので、もともとプーチンの支持者は軍と警察官僚が多いのです。このままではエリツイン自身も減んでしまうと危機感を感じ、彼の親族の収賄疑惑を訴追しないという一筆をとって、大統領代行にプーチンを指名したので。

——プーチンの評価は。

塩谷 英米のメディアの評価はよると、プーチンは悪者になります。ロシアから早く出て行けという論調です。ヨーロッパの評価は少し違います。ロシアはドイツ、フランスとは仲がよく、アメリカ、イギリスとは仲が悪いですね。

プーチンは日本には好印象を持っていて、彼は日本と組みたいと思っています。アジアの世間で、外交でカードを切ろうとした時に、ロシアが一番心配に思っているのは、中国です。中国は経済的にも軍事的にも台頭してきていますから、ロシアとしては脅威の対象になります。今、ロシアは中国と連携しています。が、いつ中国が寝返るかということに常に考えています。

四島返還は？

——翻って北方領土の問題は。

塩谷 北方領土問題は、沖繩の米軍基地の問題とリンクしていると思います。ヤルタ協定でアメリカ、イギリス、ソ連が会談した話の大枠の中に、北方領土問題が含まれています。第二次大戦の終結と同時に、北方四島はソ連に、沖繩はアメリカに決っていました。その背後には地政学的な環境があります。ソ連が北方四島を持っていると、太平洋に出やすいわけです。今、ロシアはアメリカと冷戦状態にありませんので、北方四島の重要性は低下しました。しかし、北方四島を日本に返すとすれば、太平洋への出口の主導権を日本が持つことになります。これは冷戦体制化では、アメリカが絶対に認めなかつたことです。沖繩も、中国が太平洋に出る際の玄関口に当たります。中国を封じ込めるためと、アジアに何か起ったときに、アメリカがアジアに飛び出せる状態になっています。だから、アメリカはなかなか沖繩を手放せない。北方四島を返すとすれば、アメリカがゴースサインを出した場合に限られると思います。北方四島は日本とロシアだけの問題で

はありません。  
——よく二島返還と言われますね。

**塩谷** 鳩山一郎首相の時に、日本はソ連と国交を回復しました。その際、日本は北方二島の返還で平和条約を結びましょう、と打診しています。その時、ソ連はOKしています。OKと言ったことがアメリカとイギリスの外交筋に伝えられた時に、二島での合意は許さない、四島でしか合意しないと云え、とワシントンから連絡が入りました。二島返還で合意したいと鳩山首相は頑張りましたが、それなら、アメリカは沖縄を永久に日本に返還しないと答えました。当時、鳩山首相にはシベリア抑留者の問題があり、国交回復を優先したため、日ソ間で平和条約は結ばれませんでした。——ところで、毎年ロシアへ行かれるのですか。

**塩谷** はい。一度行くと三週間くらい滞在します。以前は、半年程滞在したこともあります。一九九八年に東北大学は、シベリアのノヴォシビルスクに駐在事務所を開設しましたが、一九九九年以降、その管理を任せられました。ノヴォシビルスク市は、人口ではロシア第三の都市

で、シベリアの中心に位置します。シベリアでは実際に、マイナス三十一度を経験したことがあります。日本であれば、東北の仙台みたいなもので、シベリアの首都に当たる大きな都市です。ロシアの人口は一億四千万人ですから、シベリアは経済圏からすると一割に当たります。ウラジオストツクは五十八万人くらいです。

——東北大学がそこに施設を作られた目的は。

**塩谷** 工学系の西澤潤一学長は、長年シベリアの研究者と共同研究を進めて来られました。ノヴォシビルスクに東北大学が拠点を置いたのは西澤学長の発案です。ノヴォシビルスクにはロシア科学アカデミー・シベリア支部が存在し、筑波学園都市のモデルとなった学術研究都市があります。この都市は資源探索を目的に一九五〇年代に設立されました。その後、二〇〇一



年に東北大学はモスクワ大学と協定を結び、二〇一〇年以降、ロシアと交流を進める中枢組織としてモスクワ大学に事務所を置いていきます。二〇一〇年から、私はモスクワ事務所の立ち上げに関わり、毎年モスクワ大学に出張しています。

——ロシアに関心をもたれたのは。  
**塩谷** 一九九一年九月から半年間ソ連で留学して、見聞したこと、日本で言われていること、かなりの格差を感じました。本筋のことが伝えられていないということが、まず第一にありました。私達は、ソ連はヨーロッパの国であり、ヨーロッパ文化を発展させてきたイメージをマスコミと学校で学んだわけですが、実際に行ってみると、ヨーロッパの側面はあるもの、かなりアジア的側面を持つていることが分かり、このアジア的性格を正確に捉え、日本に伝えるべきだと思いました。

——アジア的側面を具体的にいうと。  
**塩谷** 具体的には、ロシアで「タタールの頸木」と言われますが、ロシアにはモンゴル帝国に支配された時期があります。十三、十五世紀頃、制度的な言葉がモ

ンゴルからロシアに入ってきています。ロシアは税金、法律、貨幣等の言葉をモンゴル語から導入しました。また、組織的には、ロシアはかなり中央集権的で中国に近いと思います。一つの組織を作ると、ロシアではトップの権限が極めて強いです。日本では協調しながら皆で決めています。

他には、政府を信用しない側面があり、親族や知り合い同士の付き合いに頼る傾向が見られます。これは中国にも当てはまるとは思います。この親族や知り合いのネットワークは強固です。政府はいつ裏切るかわからない。中国も肅清をしましたが、ソ連でも政府や制度が変わると、今まで中枢にいた人を収容所に入れるとか、国外追放だとか、無茶苦茶なことを行っていました。今後もするでしょうし、この体質は変わらないと思います。ですから、ロシアは西側の意味で、民主主義国家にはならないと思います。勿論、制度的には民主主義で選挙を行います。が、実質的には不正は行なわれるだろうし、地方自治はあり得ません。でも、それを批判しても仕方がない。日本の価値基準から見て、おかしいから制度を

## 経営再建コンサルタント協同組合

理事長 長井和男 (大22回)  
公認会計士

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-4 共同ビル(八重洲口)505

TEL 03-5255-3511 FAX 03-5255-3512

E-mail : nagai@sai-ken.or.jp

代えなさいと云つても、そういうお国柄ですから、変えようがありません。

## 二大学入学制

——これからの研究は。

**塩谷** 私の研究は経済史の分野で、大雑把にいうとロシアの産業革命をどう考えるか、ということなんです。十九世紀の問題なので、直接現代の問題には関係していません。

研究の背景には、民族学者の梅棹忠夫さん（元国立民族学博物館館長）に憧れたことがあります。海外の留学生に会い、実際に外国に行ってみて、日本との違いを知り、彼が提唱した歴史モデル、「文明の生態史観」の意義は相当大きいと思えました。それを経済史の中に導入して、何千年という長期のなかで、人類史の展望を行ってみたいと思つています。ロシア研究や中国研究をするついで、その国の最前になり、その他の国への関心を失いますが、地球全体からロシアを位置付けてみたいと思つています。

——聞くところによると、韓国、中国、台湾の若者は、外に対して関心が高いが、日本では外に対して関心が低いのではないかと



と思うのですが。

**塩谷** 要は、日本の方が幸せなのです。中国も台湾も貧しいと、海外に出てチャレンジしてみる意欲がわく。日本は居心地がよい。日本と違って、外国では犯罪が多く、貧富の差が大きい。外国に行っても得るものは少ないなあ、となるんですね。もしかすると日本が世界最高の生活水準にあり、質的には一番かもしれません。

——会社でも昔は欧米に駐在すると誇りでしたが、今はえー私がかですかと言う人が多いのです。想定してない、行きたくないですよ。

**塩谷** これから日本の社会をリードする人材には、日本の文化と外国の文化を肌で知って、様々な外国人をまとめる能力が必要だと思つています。文部科学省はこれから、少数の大学からでしようが、その方向に進めて行くでしよう。企業の要請もあり

ますので。

今、世界的な流れからいうと、二つの異なる大学で学ぶ形が増えていきます。一つの大学で全てを学ぶのではなく、もう一つの大学で、若いうちから異文化を経験するということです。国内

## 随想 再会の秋

黒澤 日出男（大川）

この秋、五十年ぶり、四十年ぶりの再会が相次いだ。大学同期の同窓会総会が二年毎に開催され、今年は我々東京在住組が幹事役を務めた。

既に四十名が物故者となり、百四十名に案内状を発送し七十四名から参加の返事があつた。これまで最大の参加者で、幹事団としては盛り上がりと共に何故最大の参加者となつたかを推測し合つた。

青春時代を過ごした彦根での開催であること、高齢故今回が最後の参加と考へた仲間が多いこと等だろうとの結論だつた。

ただ残念だつたのは、開催日の二週間前から手術入院の為とか肺炎になつてしまつたとか体調不良の為とかで十名の欠席者が出てしまつた。これも、高齢者故の悲しい現象であろう。

新幹線米原駅から琵琶湖畔の

だけでなく、もう一つ他国の大学院以上はそうなつていくでしよう。

「ニヤ制度」は、ヨーロッパ諸国がEU内の団結を高めるために制度化したのですが、この制度はヨーロッパから次第に他地域に拡大しています。日本でも大ホテルまで送迎バスが出ることを告知したので、名古屋組・京阪神組も米原駅で合流した。

テニス幹事として、テニス参加者はホテル最上階のレストランでランチを共にしようと召集していた。彦根城と琵琶湖を見渡せる眺望の良いレストランで全員が揃い、挨拶を交わした。この中の三人は、学生時代から硬式テニス部で私とは交流も無く初対面の有り様だったが、そこは同窓生の仲なので楽しくプレーを終えた。この三人とは五十二年ぶりの再会となつた。

翌日、湖北歴史観光組二十名はチャーター・バスで大河ドラマ「江姫」ゆかりの小谷城址や姉川の合戦場・国宝を拝観できる寺院を巡つた。

観光コースのハイライトは、国宝十一面観音菩薩が拜める渡岸寺訪問だつた。この十一面観音像は、井上靖や遠藤周作、白洲正子が絶賛し作品にも採り上げられているので有名だ。

このような丁寧な説明を、渡岸寺のご住職から直接拝聴出来たのはラッキーだつた。拝聴後、ご住職に近づき「奥様は旧姓〇〇さんでしたか？」と問うと、「そうですか……？」と答えたので「実は五十年前、奥様と奥様の親友〇〇美恵子さんを交え

た女性群と此処に居る我々数人が（今で云う）合コンを開催しました。〇〇美恵子さんは我が親友Y君と結婚しました」と云うと「あのYさんですか、大変親しく致しております」と応じてくれたので「もし奥様が御在宅でしたら、お会い出来たら……と思ひまして……」とお願

いした。明治三十年に特別国宝指定、昭和二十八年に新国宝の指定を受けた十一面観音像は昭和四十九年に現在の収蔵庫（慈雲閣）へご遷仏した。この慈雲閣から、ご住職がお住まいのお寺（向源寺）までは約三百五十メートルの距離が在る。ご住職が奥様に電話して下さり「直ぐ参ります……と云つております」と云つて下さったので、奥様が到着されるまで、ご住職と一緒に写真に収まって貰ったり合コン当時の想い出話しをして待った。

懐かしの再会は五十年ぶりである。早速、合コン当時の仲間と一緒に写真に収まって貰った。この再会模様の騒ぎは、同行の観光コース仲間がスナップ写真として、後日メールに添付して送ってくれ貴重な思い出写真となった。

当日不参加だった親友Y君には、渡岸寺でのご住職ご夫妻との経緯をメールで報告したら、彼の奥様宛てにご住職の奥様から電話が入り、「前もつて皆様のご到着を知らして頂いておりましたら、準備してお待ちしていただいたのに！慌ててしまつた！」と嘆いておられたとか。

それから一週間後、四十三年ぶりにイタリア人カルロ・フィオーレ氏と再会した。ビジネスマンとして社会人スタートした外資会社の直屬マネージャーだった。だから、私のビジネス・マナーは彼から教わったこととなる。スーツの胸ポケットにペンや鉛筆を刺し込んでいると「黒澤さん、ちよつと」と呼ばれ、「これ、駄目ね！」と内ポケットに移動してくれた。

私が本社から地方の営業所に出ていた昭和四十五年、彼は八年間の勤務を終えてイタリアに帰国していたのだった。アメリカ宇宙飛行士の月面着陸の様子は、彼のマネージャー室テレビで観て興奮したと覚えている。

そんな彼が四十数年ぶりに来日し、当時の懐かしい仲間と逢いたいと連絡して来た仲間から電話が入った。当然、出席の返事をしたが彼は私を覚えてい

るか？とか、もうかなりヨボヨボのお爺ちゃんになつてい

るかな？と案じていた。会場となつたのは、英語の解る仲居がウリの日本料亭だった。当日集まつたのは十五人、もつと多くの仲間

に声をかけたようだが、病氣や体調不良の理由で欠席者が目立った。指定の時間十五分前に会場の部屋に着くと、フィオーレ氏と当時の秘書女性が待ち受けていた。

懐かしさの余り、固く握手を交わし英語で挨拶した。当方はイタリア語がプアーだ。年齢を尋ねたら、七十九歳だと云う。予想していた以上に元気な姿で安心した。

現在は、ベネチア近郊に住み、数年前奥さんを亡くしたと云つて「これ以上、奥さんの事は聞かないで」と云うので奥

さんの事は不問とした。

上海に住む娘さんを訪ね、これが最後の日本訪問と思ひ皆さんに逢いたくなつたと云う。

秘書の女性は、十一年前に郷里広島島に帰り、この日の為に昨夜広島島から出て来たそう

だ。彼女も、四十三年ぶりの再会だった。人生随処に愉しみ

り……だ。

## 時代の流れと自分の進路

（鉄鋼ビジネスマンの道）

楠田 迪彦（本24回）

私は昭和二十六年、彦根経専を卒業し、二十一歳で実社会に入り、鉄鋼ビジネスマンとして五十年間働き今日に至りました。

「バブル崩壊」に遭遇し平成の不況に至る激動期を過ごして来ました。

我が国経済の復興は国際情勢の急変にあり、昭和二十五年勃発の朝鮮戦争に起因するものと思われ

ます。当時、米国は今まで同盟国であったソ連、中国等共産陣営に對抗するため、急遽従来の対日政策を変更して、日本重工業の復興を解禁しました。その結果、日本経済は産業構造の変化を伴

い発展し、当時全盛であった繊維産業等軽工業が次第に衰退し復興が遅れていた鉄鋼業等重工業が急成長しました。昭和二十五年、多くの同期生は就職先の決定に際して、時代の変化に少

しも気付かず、彦根高商の伝統もあり、当時全盛の繊維産業や商社等を選択しました。私は在学中、軽い肺結核を患い三カ月間休学したハンディもあり、当時の有名大企業を望まず、将来発展が期待されそうな鉄鋼業の関西平炉メーカーであった日亜製鋼（株）に入社しました。

世の中は何が幸いするか判らぬもので、会社はその都合併して時代の波に乗り念願の高炉メーカーに転身発展しました。しかしその過程は非常に厳しく、



過去を顧みると、長い戦時を体験し、終戦後日本経済の復興期より高度成長期を経て、所謂

高炉関連の設備には莫大な資金を要し、以前より進めてきたステンレス鋼の増強も加わり、資金需要が集中してその調達が会社の成長を左右する重要課題になりました。

その時期私は何の因果か、会社重視の資金業務につき、内外の金融機関より低利安定資金の調達のため専念して来ました。その間、会社の業績は過大な設備投資に圧迫され、赤字が急増して金融機関よりの借り入れが

なかなか進まず、資金不足の厳しい時期が長く続きました。

昭和四十年代前半、漸く高炉が完成し、その効果が出て会社の業績は次第に向上しました。金融が自由化した昭和五十年代、会社の業績が安定してきたので、国内では転換社債、海外では欧州で外債を発行して資金コストと財務内容の改善に努めて来ました。その実績が評価され昭和五十八年、役員に昇進しました。

その私に突然の転機が訪れ、昭和六十年の春、予期せぬ販売業務への異動を命じられました。私にとって販売業務は未経験の分野であり、苦勞を重ね鉄鋼製品拡販の指揮をしてきました。その間日本経済は長い好況の

結果物価が上昇し、株式や不動産が暴騰して、その反動により「バブル崩壊」が起き、多くの証券会社や金融機関が倒産して、金融システムが混乱し、多数の企業が大打撃を受け、平成の不況に突入しました。わが社も財務面で大きな被害を被りましたが、私は幸いにも数年以前に販売業務に移転していたので、直接の被害は受けずに済み

ました。若し従来通り資金業務に従事しておれば、きつと大被害を受けていたであろうと考えるとそれを回避した強運に感謝せねばと思います。

その後平成五年、日新製鋼(株)の副社長を最後に退社し、関係会社新和企業(株)の社長として経営に携わり平成十三年、七十一歳で引退しました。

実に通算五十年の勤続でした。以上の如く昭和の激動期、自分の進路が時代の流れに合致した幸運により、鉄鋼ビジネスマンとして、五十年間働き、自効努力を重ね、多くの危機を克服して、会社の発展に寄与して来ました。

「仕事に鍛えられた」幸運な人生であったと感謝しております。

## 始めよう! 「Q&A」 陵水会 Facebook

陵水会にもいよいよ情報革命の波が押し寄せて来ました。昨年夏、東京支部からの提案を契機にスタートした陵水会フェイブックは、僅か数ヶ月の間に、ファン数は一、〇〇〇名を超え、グループ登録者数も五〇〇名に迫る勢いで全国に拡がっています。

とは言っても、Facebookという言葉は聞いたことがあるが、自分が始めるには何となく取っ付き難いとか不安に感じている方も多いいのではないかと思います。本編はそうした皆さんを対象にしたFacebookの入門講座Q&Aです。これをお読みになって多少気が変われば是非あなたもチャレンジしてみたい下さい。

【Q1】そもそもFacebookとは何ですか?

(A) Facebookは、元々米国ハーバード大学の学生交流サイトとして始まり、今や世界で十億人以上に利用されているWebサービスです。日本でも月間ユーザーは二千万人を超える状況になってきております。そこに

は色々な機能がありますが、情報共有と近況報告が基本となっています。実名で登録したユーザー同士が、近況報告を行ったら、情報共有を図りながら、いいね!という前向きな言葉で交友の輪を深め、拡げて行くことが出来ます。

【Q2】陵水会がFacebookを開発する意味はどの辺りにあるのでしょうか?

(A) 同窓の皆さんが繋がる場としては、従来から支部総会や色々な同好会もありますが、ややもすると年配者に偏る傾向がある上、どうしても限られた地域内の交流が中心となります。地域の壁を越えながら、老若男女がフラットな関係で、もっと気軽に交流できる場を提供したいというのが基本的な趣旨です。今後の陵水会の息の長い発展を考えると、若い世代が中心となってこうしたコミュニティを育てていく事はとても重要なことだと思われれます。

一般的に、大学がFacebookを開発する動きは未だ緒に付いたばかりですが、その形態や目的は様々かと思われれます。同窓会が主導して、卒業生や在校生・教職員を包含したFacebookを運営する事例は全国でも珍しい



# 株式会社 金乃台カントリークラブ

支配人 鎌田 和美

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

と言えます。

【Q三】実名で登録して大丈夫ですか？

(A) 「実名で登録するのが原則」と聞くと、「どこの誰とも判らない人に自分の名前や行動が筒抜けになってしまうのではないか」と不安を感じる人もおられるかも知れません。Facebookではこうした不安に備えて、名前以外の自分のプロフィールを非公開に設定することや、記事の投稿範囲を自分の知り合いのみに限定することも出来るようになっていきます。

陵水会 Facebookは二本建になっていきます。一つは公開ページで誰でも見ることが出来、広報的な機能を果たしています。もう一つはグループと呼ばれる非公開サイトです。このグループへの参加資格は、陵水会員・在校生・大学教職員に限定され、登録申請するとサイト管理者が名簿等でチェックの上、メンバー承認を行います。そうした意味では全く見知らずの関係ではない者同士の交流サイトと言えますから、こうした不安も多少薄らぐかも知れません。ただ飽くまでも基本は自己責任の世界ですから、むやみに最初から友達を拡げず、一定の節度

を持って投稿なりコメントをして行かれることをお勧めします。

【Q四】実際に陵水会 Facebookの会員になるにはどうしたらいいですか？

(A) 先ずは、アカウントを作成する必要があります。その手続きは次の通りです。(勿論会費や入会金等の費用は一切かかりません。)

① 先ずインターネットで Facebook のトップページを開きます。

<http://www.facebook.com/>

② アカウントのトップページが表示されたら名前、メールアドレス、パスワードを入力・設定します。次に性別と生年月日を登録して、「アカウント登録」ボタンを押せば第一段階の手続きは完了です。

③ 次にステップ画面が表示されますから、画面指示に従って自分のプロフィール情報等を適宜入力していくことになります。ただこうした情報は後日入力することも出来ますから、気になる場合は取敢えず名前と大学名だけ入力し、後はスキップしながらアカウントの作成を進めることも出来ます。写真についても適当なものがない場合は後日掲載

しても問題ありません。

④ 最後に Facebook から届く登録確認メールを受信し、登録完了ボタンを押せば手続き完了で、そこから Facebook が使用可能となります。

⑤ 次はいよいよ、陵水会 Facebook ページにアクセスします。 <http://www.facebook.com/shigaryosui>

このページを開いたら、まず画面の右上の方にある『いいね！』ボタンを押してページのファン登録をしましょう。それが終わったら、同ページの基本データ欄記載の URL よりグループにアクセスし、画面の右上の方にある『グループに参加』ボタンを押してください。グループの内容は外部に非公開であり、陵水会員や在校生等、大学関係者のみが参加できるものです。ここはいわば身内の世界、まさに「陵水ワールド」ですから、よりフランクな情報交換が可能ですよ。

これであなとも立派な Facebook ユーザーとなりました。先輩・後輩のみならず、彦根で頑張っている学生諸君や先生達とも気軽なコミュニケーションを楽しんで下さい！

Facebook 運営委員会(同より)

## 滋賀大学ラグビー部 九十周年に向けて

吉田 勇夫(大15)

滋賀大学経済学部ラグビー部は来年、大学と同じ九十周年を迎えます。それに当たって沿革と九十周年に向けての事業計画を述べさせていただきます。

### 一、九十年の沿革

#### 《彦根高等商業学校時代》

チームの発展の為に京都支部へ戻りました。その後も名古屋支部との交流は続けられました。

#### 《滋賀大学経済学部時代》

戦後の混乱期も落ち着いた昭和二十六年(一九五一年)大学二回森本氏三回日比氏が体育の榎本教官に教官室に於いて、今村・井坂・山崎各先輩より、ラグビー部の復活を要請され翌二



十七年(一九五二年)に再スタートしました

正式には大正十五年(一九二六年)の春に学友会の独立の部となりました。

このころは(一九八一〜八五年)関西ラグビー協会の管轄の下に、大阪・京都・名古屋支部があり、最初は京都支部に所属、一時名古屋支部に移りましたが、

昭和三十七年(一九六二年)十月には、日活映画「青い山脈」

へ部員全員が特別出演し、吉永小百合と共演したのです。又この年部誌「陵水ラガー」が向井・水野・佐藤氏の努力で創刊されました。

昭和三十八年（一九六三年）五月十九日に彦根・湖城荘にてラグビー部創立四十周年記念祝賀会が盛大に催されました。昭和四十一年（一九六六年）関西D1リーグにて全勝優勝し、D1リーグ優勝をかけて京都薬科大学と対戦したが8対24で敗れました。

昭和四十三年（一九六八年）は初めて四回生がリーダー（大17回川口氏）になり、チーム戦力が上りました。念願のD1リーグ優勝を果たし、花園第一グラウンドで京都工大に29対0で勝ちC1リーグ入りを決めました。

昭和四十四年（一九六九年）に三神先生が大学に來られ、ラグビー部監督として指導力を発揮され、理論に裏付けされた練習が出来るようになりました。

昭和五十四年（一九七九年）は大学の建物の改築のため、グラウンドも彦根市八坂町へ移転しました八坂グラウンドは平成七年（一九九五年）まで使用して、翌年より学内の芝生のグラウンドへ戻しましたが、管理が悪く数年

で土になりました。

平成四年（一九九二年）は創立七十周年総会が中井正朝会長の下で近江プラザホテルで盛大に行われ、又記念誌発行が提案

されて別府忠司氏（大学26回）等により翌年刊行されました。平成十二年（二〇〇〇年）の関西D1リーグで全勝優勝し、C・D入替戦で山崎昇会長を始め大勢の先輩の応援の中、佛教大学に41対14で勝利し念願のC1リーグへ昇格できました。

その後、平成十九年（二〇〇七年）までC1リーグで健闘してきましたが、部員数の減少等の要因でその後C・D1リーグを下し、現在に至っています。

平成二十年（二〇〇八年）三神教授ご就任四十周年祝賀会が五月三日に行われ、指導をうけた約百名が、祝辞とお礼を述べ、また山田監督就任の十五周年のお祝も行われました。

平成二十三年（二〇一一年）の還暦陵水ラガークラブ懇親会（六十代以上のOBの懇親と情報交換の会）にて室殿氏（大15）より提案された「現役を素晴らしい環境で練習させたい」

「新入部員の増員援助」にむけてグラウンド芝生化事業計画を九十周年の記念事業にする案件が

翌年の八十九回総会で承認されました。

二、九十周年記念事業計画

この九十周年記念事業としてグラウンド芝生化を目標にしたい

との提案は平成二十三年（二〇一一年）六月に岩田政三会長による梅澤経済学部長への要請に始まり、三神教授（現名誉教授）

二宮経済学部事務長、西川学生支援課長と大学側皆様の多大なご尽力により平成二十四年（二〇一二年）三月にはグラウンド散水設備が設置され、平成二十五年（二〇一三年）秋には芝生のグラウンドが完成する予定です。

ラグビー・サッカー・アメリカカントリーボールの三部はもとより、多くの学生が芝生のグラウンドになることを望んでおり、又隣接する住宅の皆さんも歓迎しています。グラウンドの維持管理については三部が共同で大学と運営していかないとはいけません

が、ラグビー部においては川口暢之会長代行の積極的な運動により、八十九回総会にて賛同を得、九十周年記念事業としてOB会も取組んで参ります。特に

陵水会の皆様におかれましては、全学的な運動として芝生化についてご理解、ご支援をお願い申し上げます。

# ゴルフ談義

## 東京陵水ゴルフ会

### （第八十七回～九十回）

川本支部長の時、警方先輩などの発案により平成二年三月十三日第一回東京陵水会ゴルフコンペが行われた。それ以来、諸先輩方のご尽力により年四回のコンペが実施されてきました。平成二十四年九月六日に第九十回記念コンペを開催しました。

ここ数年間は最高十二組、少くない時でも八組を下回ることもなく、多くの会員の皆様が参加さ

れ、毎回毎回熱戦が繰り広げられております。最高齢八十六歳

井口さんから大二十回卒六十六歳の宮武さんまで、二十歳の年の差ものともせず白球に精魂を込めて激しい戦いが繰り広げられて

ています。熱戦後の飲み放題のパーティーの賑やかなこと！毎回ビール・ワイン・日本酒を飲みながら、彦根時代の思い出話やゴルフ談議など時を忘れて和気あいあいの楽しい懇親が繰り広げられています。

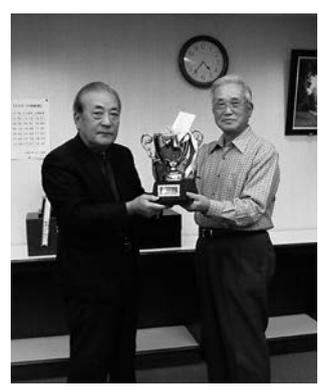
この一年間も金乃台カントリークラブで、好天の下、熱戦が繰り広げられました。各回の戦績は下記の通りです。

### 第八十七回大会

△大二回卒柴田選手（七十九歳 十一カ月）四回目の優勝▽

平成二十三年十二月十二日（水）十組三十九名

成績（賞金獲得者）（卒年）ネットスコア（ハンディキャップ）



優勝…柴田 茂夫(大2) 70(21)  
準優勝…山本 節夫(大17) 68(23)

成績(賞金獲得者)(卒年) ネットスコア(ハンディキャップ)  
優勝…北澤勝太郎(短5) 70(9)

平成二十四年六月十二日(火) 八組三十名  
成績(賞金獲得者)(卒年) ネットスコア(ハンディキャップ)

優勝…川崎 憲夫(大17) 66(14)  
準優勝…石垣 康(大10) 71(14)

【新規参加をご希望の方大歓迎!】  
氏名・住所・☎番号・生年月日・卒業回・所属ゼミ・クラブ・ハンディキャップを

三位…岡田 巖(大2) 71(27)  
四位…中西 三一(大5) 72(20)  
五位…三宅 義男(大6) 72(29)

三位…川合 久嗣(大11) 72(26)  
四位…吉田 久典(大13) 74(15)  
五位…滋野 輝彦(大17) 74(15)

優勝…平居 俊雄(大12) 71(21)  
準優勝…田川 行雄(大9) 72(15)  
三位…中尾 克也(大15) 76(20)

三位…竹森 二郎(大18) 71(7)  
四位…田村 寿夫(大12) 73(24)  
五位…佐藤 秀孝(大10) 76(18)

下記メールアドレスにご連絡下さい。Xの次にアンダーバーがあります。  
山本 保…  
yattax\_888@icnet.ne.jp (山本保 記)

十位…若山 忠(大13) 76(21)  
十七位…川崎 憲夫(大17) 79(14)  
二十位…西坂 徹雄(大9) 81(11)

十位…岡田 巖(大2) 76(24)  
十八位…柴田 茂夫(大2) 80(14)  
二十位…石垣 康(大10) 8(14)

五位…柴田 茂夫(大2) 80(14)  
九位…川崎 憲夫(大17) 83(14)  
十五位…北澤勝太郎(短5) 86(5)

二十位…中尾 克也(大15) 80(18)  
二十五位…中村 圭吾(大13) 82(21)  
二十八位…田中 俊男(大10) 87(21)

「囲碁会の現状と今後を思う」  
去る九月二十三・二十四日、第十回三地区交流会が熱海のニユーフジヤで開催された。

大波賞…田中(大10) 10打差  
水平賞…保正(本24)  
ニアピン…川崎・田川・中村(嘉)・長嶺・山本(孝)・山本(保)・古山

大波賞…田川(大9) 14打差  
水平賞…箕島(大4)  
ニアピン…金井・川合・名口・柴田・岡本・北川

大波賞…西澤(大10) 14打差  
水平賞…木戸(大16)  
ニアピン…田川3個・田村・小梶

大波賞…平居(大12) 7打差  
水平賞…保正(本24)  
ニアピン…三宅・兼松・北澤・三井・西坂

参加者は、関西(七)・中部(八)・関東(七)の全三十二名。A・Bの二組に分かれて各五局を打ち、個人戦と団体戦を競った。日ごろの鍛錬を実った人とそうでない人が様々…特に地元関東勢は次の成績の通り惨敗したが「幹事疲れ!」。自由対局や露天風呂温泉を楽しみ、飲み放題の懇親会で再会を誓った。

第八十八回大会

△北澤選手待望の初優勝! ベストグロス賞も連続!▽  
平成二十四年四月十二日(木) 十組三十八名



第八十九回大会

△平居選手七年ぶり二度目の優勝▽



第九十回記念大会

△大十七回川崎選手初優勝!▽  
平成二十四年九月六日(木) 十組三十九名



A組  
優勝 鷺見 公嗣 七段(中部)  
二位 畠山 義生 六段(関東)  
三位 新子 充将 六段(関西)

五位 水野 健治 六段(中部)  
 七位 篠田 豊 九段(中部)  
 B組

優勝 内山 保生 三段(関西)  
 二位 牧野 清 五段(中部)  
 三位 松浦 義敬 三段(関西)  
 五位 吉田 勇雄 三段(関西)  
 七位 平林 昭男 二段(中部)

団体戦

優勝 中部

二位 関西

三位 関東

この交流会は丁度十年前、井上・天田氏(大5)を中心に、関西地区との交流を企画されたのが発端である。それを聞いた小生が、かつて囲碁部で一緒だった名古屋の篠田君(大11)に声を掛けたらOKで、中部からも三名参加しこれを契機に同地区でも囲碁会が結成!

最終的に、関東十五、関西十二で、計三十名が集まり、今は亡き吉原悟一氏(大9)が幹事を務め、湯河原の「杉の家」で開催された。会は盛況で「毎年、持ち回りで開催する」と決まり、名古屋、京都、岐阜、奈良……と続いた。

ただ近年、他地区での開催に東京(関東)からの参加者は少なく(三、四)団体戦にならない!

「東京は十回を節目に降りて個人参加を」との意見もあったがペンディングに。

東京(関東)囲碁会の歴史は古い。佐野さん(故人本18)が会長でリードされ、吉田氏(北陸?)が幹事として長く世話をされた。会場は日本棋院本院が多かったようだ。小生が加入したのは平成の始めで、吉原氏が



幹事を引き継ぎ、大会は、池田氏(大8)の「曙碁所」で開催されていた。ちなみに、平成十五年の会員名簿には四十名が載る!

その後、会場は神崎氏(大3)の協力で「情報産業会館」に移り、幹事も三井君(大10)と小生(サブ)に変わった。

十年来、年二回の大会を催し、有志による研鑽の「棋楽会」も毎月一回運営して今日に至る。

ところが、最近の会員は二十名強に減少、春の大会参加者は僅か十二名!加えて、会場の確保も難しくなり「棋楽会」は解散した。

そして今後、三地区交流会を含め、東京囲碁会の運営をどうするかのまさに転機にある。

最近二回の幹事を務めた刀祿館氏(大8)、森本氏(大9)の後、次回は小原君(大12)、鈴木君(大14)にやってもらうことになっているが、その先は未定で、小口君(大14)を加えて検討する事に……。

そこで思う、かかる会の継続、発展のためには何が必要か?

まずは、「幹事なしに会は成り立たない!」と再認識し、「本来は、交替で幹事を務めるべきものだろう」と考える。それが無理なら協力を惜しまないで「仲間を増やす、大会には参加、開催案内への回答は速やかに、日時はきちんと守る……」。そして、幹事には「お世話さん、ご苦労さん」と気を遣うことが大切では?

これからも会が続いて、皆で碁敵相手に楽しめれば嬉しい。

エレベーター等、輸送機械の営業、設計、製造、据付  
 保守サービス、モダンゼーションに関する全業務



# 守谷エレベーター

ISO9001 認証取得

## 守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長 守谷 貞夫(大12回)  
 田村 寿夫(大12回)

本社・第一工場 〒236-0004 横浜市金沢区福浦1-14-9 TEL(045)785-3111 FAX(045)780-1881  
 営業本部 〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-40 銀洋ビル4階 TEL(045)322-3111 FAX(045)322-9486  
 東京支店 〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-6-1 協栄ビル7F TEL(03)5542-2700 FAX(03)3297-7400

大阪支店 福岡支店 宇都宮工場 名古屋出張所 札幌出張所

折しも、強敵だった北村さん(大5)の訃報を聞いた。ただ心から「冥福をお祈りします」

(十月十日 記)

### 平成二十四年散歩会の開催

#### ●一月二十五日(水)

「浅草名所七福神巡り」・行程  
浅草寺雷門→矢先神社→鷲神社→吉原神社→浄閑寺(投込寺)→石浜神社→不動院→今戸神社→待乳山吉祥天→浅草寺。

吉原の街中で蘊蓄を傾ける人あり。立ち話を聞く。浄閑寺は死後埋葬を希望した永井荷風の文学碑を見る。(実の墓は雑司ヶ谷霊園)。参加者・五名。

#### ●四月二十四日(火)

「江戸城の北を巡る」・行程  
東京駅丸の内北口→皇居東御苑(江戸城本丸址)→北の丸公園→旧近衛師団司令部本館→飯田橋界隈→後楽園→伝通院→麟祥院(春日局の菩提寺)→御徒町駅。

花々の咲き誇る季節。庭園、寺院の雰囲気も明るく、麟祥院では入門時間が過ぎていたが、何とか墓石に丸い穴のあいた局の墓を詣ることが出来た。参加者・十名。

#### ●六月二十九日(金)

「深大寺と天文台を巡る」・行程  
調布駅→深大寺→神代植物園水

生植物園→神代植物園→東京天文台→国際キリスト教大学→武蔵境駅。

水生公園は清水の中で揺れる植物が珍しい。東京天文台では古い施設、新しい天体望遠鏡、天文台の歴史と、好奇心と勉強心を揺さぶった。敷地の地下には観測施設が張りめぐらされているとのこと。キリスト教大学のキャンパスを二巡して、武蔵境駅までバスを利用。参加者・五名。

#### ●七月三十一日(火)

「涼風を探して玉川上水道から小金井公園に」・行程  
三鷹駅北口→玉川上水道・境上水所→小金井公園→江戸東京た

ても園→海岸寺→小金井駅。上水に沿って桜の並木道が続く。緑が歩道にかぶさっている。日陰を作っている。小金井公園は深い森あり、草原があり、丘あり。たてももの園では三井家本邸の贅沢さと精緻さに感嘆。高橋是清邸では二二六事件の凄惨さを暗殺の現場で想像する。

海岸寺を詣でて小金井までの住宅街を歩く。打上げで母校の歌を放歌する。参加者・七名。

#### ●九月二十六日(火)

「新都市交通舎人ライナーを組み合わせて」・行程  
日暮里駅→舎人ライナー線・見

沼代親水公園→小金井公園→舎人公園→舎人ライナー線西新井大師西駅→日暮里駅。

日暮里駅から終点見沼代親水公園まで九・七キロ、三三〇円。毛長川を改修して出来た二キロほど続く親水公園から舎人公園の広大な園地に入る。まだ整地されていない林野を抜けて、住宅街から西新井大師に至る。初詣の賑わいが想像された。参加者・六名。

※散歩会は平成四年四月に「東京陵水」編集部三名でスタート。以来平成十二年九月までで五十四回を数える。八ヶ岳山麓や沼津市内散歩と遠征も試みた。参加人数は多い時で十四名、平均八名程度になる。午後一時に所定の所に集合、約四時間のコー



スを歩く。歩き終えた後の打上が楽しい。ウォーキング効果と観光を併せて、参加者に楽しく歩いて欲しいとコースを選ぶ。

参加希望者は、ご自由にEメールで申し込んで下さい。何時でも受け付けます。直近のプランをメールで送ります。

hysckys@nifty.com

林 史欣(大8)

### 東京陵水会計人会新年会の開催

岡田 憲治(大18)

東京陵水会計人会新年会を平成二十四年一月三十日、西新宿の「土風炉西新宿一丁目店」にて開催しました。

この会は平成八年七月十八日に世話人高木早苗(本24)星出潔(大13)稲野辺敬義(大19)の三氏により彦根高商・滋賀大出身の税理士・公認会計士として、お互いの交流を深めることが出来るばと、首都圏において活躍している職業会計人の第一回目の集りが企画され、以後毎年「暑気払い」と「忘年会」か「新年会」が開催されてきました。

今年の新年会も七名が集まりました。参加者、不参加者は以下の方々です。(敬称略)参加者は星出潔(大13)、岡田憲治(大



18)、長井和男(大22)、御旅屋尚文(大24)、深田陸子(大26)、松澤進(大38)、北尾聡子(大45)。不参加者は海外出張の久野康成(大37)、業務都合の上田信子(大29)でした。

参加者は各自近況報告を行いました。今年も楽しい新年会でした。

### 大学十八回(昭和四十五年卒)同期会開催

大学十八回同期会を四月十八日東京駅八重洲北口「ニユートーキーヨ」句さがみにて開催しました。東京支部総会の当番幹事を契機として、同期会を六人で開催してから七年経ちました。同期生の数も今年で四十九名になりました。毎年四月十八日に開催しています。今年は一

十名の懐かしい顔ぶれが集まりました。近況報告を一人づつ行いました。

一巡する頃には程よくお酒もまわり、四十余年前の彦根某所での酒宴と同じ状況が再現されていました。機会があれば同期で会おうという事から、ゴルフ、ハイキング、昼食会等の色々なアイデアが出て今後益々楽しい同期会になりそうです。

今年、カラオケ組、居酒屋組など八重洲での二次会が大変盛り上がり彦根での思い出話に時間が経つのを忘れました。

同期会参加者は以下のとおり(敬称略)。

今津松雄 岡田憲治 岡本文夫  
小倉好博 影山哲也 兼松泰男  
喜田峯幸 栗原喜代次 小梶清



司 田中和男 徳山秀雄 直井一博 中村嘉秀 永田(佐野) 央※ 西川清吾 林良孚 前野悦夫 村瀬尚文 山本利雄 ※ 吉村政彦

※同期会初参加 四十余年ぶりの再会です)

(中村嘉秀 記)

### 若手会活動から感じる重要点

肥田 茂之(大54)

日ごろ、陵水会活動において、若手の積極参加を推進いただき、誠にありがとうございます。若手の参加は陵水会活動に多くのプラスの影響があるものと確信しております。この度は、せっかくの機会を頂戴いたしましたので、若手の参加につきまして、勝手連として活動させていただいております若手会代表幹事として、少々ご意見申しあげさせていただきます。

さて、若手会が陵水会のお力添えを頂きながら、大学への貢献活動として四十回生以下の若手会員を就職懇談会のために派遣し始めて、早二年が経ちます。その間に多くの学生にある問いかけをしてまいりました。

「陵水会を知っていますか？」

「陵水会が何をしているのか知っていますか？」

毎回浮かび上がってくるものは非常に興味深い回答でした。陵水会があるのは知っている。名前を知っている。でも何をしているのか判らない。何のためにあるのか判らない。つまり、名前を知っているが具体的なイメージがないというものでした。

ここで一点、大きな疑問が生じます。陵水会は陵水懇話会による就職活動への支援や、陵水支援を行って参りました。にもかかわらず、学生たちにはなぜか陵水会のイメージができていないのはなぜなのかということ。まさにこれこそが、学生に足りていないもの、また陵水会が今後歩まねばならない一つの方向性を指し示されているのではないのでしょうか。つまり、陵水会による大学支援の充実と共に、同時進行的に行うべきことは陵水会自体の学生への浸透を図ることです。

若手会にも大きな危機感があります。若手会は東京の四十回生以下を対象とし、口コミで参加者を増やし、そして安定した活動につながってきました。また、大阪においても飯の第一回が開催されるなど、徐々にその活動を広げています。しかし、口コミ

や紹介での活動を中心としているが故の難しさとして、転動等で東京を離れる情報は比較的に容易に掴むことができます。が、逆に東京に入ってくる情報をつかむことが困難であるという問題を抱えています。これは現状の陵水会についても言えることであり、会員各位の申告によつて現在地や状況を把握するという現状ではどうしても転勤の多い若手の情報をつかむことが困難になってしまいます。

だからこそ、若手に対し陵水に参加する意義や意味を見つけてもらい、自発的な参加を促していく必要があると我々は考えています。我々から積極的に情報を掴もうとするのみならず、陵水会に参加するために自分の情報を積極的に提供する土壌を学生の中へ作り上げることが重要と考えています。

若手会が積極的に大学へ足を運ぶことにより変わるものは、より近い年代の先輩との接点を持てるということです。卒業した若手の先輩と接するということは、学生の持つ、陵水会のイメージをアップさせることにつながるものであり、同時にそこできた繋がりが、のちに若手会に参加してみたいという思い

や、自分も何かの機会に大学へ行き後輩の手伝いをしたいという気持ちにつながっていくと思います。我々はこの活動を通じて、よりOB会活動に対して理解のある後輩を育てていくことが必要であると感じています。

同様に、陵水会自体がより学生に対し寄り添い、彼らにその活動が何であるかを知ってもらうことが大切であると考えております。今回たちあがったFacebookなどは良いアピールの場であると感じています。学生に

対し、陵水を知ってもらい、参加意識を高める活動に重要なことは二つ、彼らとの接点を増やすことと、彼らがそこから何かを得たと感じることにあります。現状、陵水会も多くの問題を抱えているかと存じます。総会への若手の参加率の低下や、会費納入率の低下などはその一端かと存じます。しかしながら、

大学からは一定の卒業生が常に輩出されており、また、彼らはそれぞれのフィールドで活動をしています。だからこそ、時間がかかるとしても陵水会として、在校生にアプローチする必要性があると考えております。是非、御一考頂ければ幸甚に存じます。

年会費・併せて寄付金をお振り込みいただきありがとうございます  
いたしました

平成二十四年度年会費納入者

(十二月五日現在)

船見祐治(本15)、若林定男(本18)、石田定夫 小笠原滋 高木克幸(本19)、葛上宗一郎 辻 暢夫 山成軒六(本20)、井口博民 犬塚昌一 河添治男 竹内政太郎 豊田弘毅 中辻喜藏 樋口廣太郎(本21)、板谷立郎 高山義雄 寺本康郎 丹羽鑛治 橋本 侃 箕浦 正 山口昭夫(本22)、永木俊一 西尾 實 西田延弘 前川彌之祐 松本 義 吉田光雄(本23)、岡田 浩 加納淳司 楠田迪彦 高木早苗 西澤 正 保正保 矢田佳三(本24)、井上泰一 奥村忠雄 加藤福志(東)、落合忠一(別)、外江竜太郎(工2)、井上祐一 川本 茂 田中孝太郎 増田捨四郎 渡辺貞二(大1)、乾 哲彦 岡田 巖 柴田茂夫 新宮 毅 水引芳雄 渡辺陽彦(大2)、井上五郎 神谷誠 神崎栄次 小八木俊雄 清水善和 中川弥次 増田茂樹(大3)、青山松太郎 今井常清 粕淵健三 北川 享 佐々次郎 田岡譲一 谷文夫 辻 昇平 寺田又三 西岡隆夫 警方海三 樋上不二子 廣内士郎 松井 茂 松岡正曜 安江郁夫(大4)、青島 弘 天田志郎 飯島勲 井上明郎 岡田和義 神谷 亨 龍口秀夫 竹内伴道 田中修二 中川郁三 中西三三 樋上泰功 細井恭一 三井正勝(大5)、青木 滋 井上久和 今宿隆弘 白井 靖 大久保義雄 大谷毅丈夫 岡田 亨 河合正紀 川村和男 草生知治 小林仁実 齋藤高康 高橋秀治 田中実 中村博一 橋本長夫 林謙治郎

久木義雄 藤原多喜雄 三宅義男(大6)、安達仁始 磯部一郎 伊藤芳朗 市川浩久 宇治原嘉政 宇野進 浦谷政夫 木下 実 佐野 了 鈴木重成 竹村孔作 富永義孝 西野 宏 東野和弘(大7)、天木清次 大島明美 小塩正長 尾本政二 小森清美 瀧川雅一 刀禰信雄 並川 淳 西村 信 浜崎守三 林史欣 松浦幸作 松岡健雄 安田一雄(大8)、日下部百也 田川行雄 中川和己 中島勝司 西坂徹雄 西田広彦 乗富俊二 平瀬武明 藤江忠正 藤本裕一郎 森本忠徳 山本孝之 吉田 弘(大9)、石垣 康 井上義隆 白井 健 小西捷治 佐藤秀孝 田中俊男 辻 尚武 坪田清六 中川寿一 中澤龍彦 橋本正道 山山義生 服部全孝 細谷 孝三井照次 山田 進(大10)、池田俊明 川合久嗣 川北直行 小林貞夫 関 恵文 野一色公平 橋本聡二 長谷村秀夫 法橋正虎 松浦紀久雄 松本隆一(大11)、稲邑明也 奥村啓一 小原捷治 守谷貞夫 田村寿夫 平居俊雄 堀内 和 堀川幸夫 宮野幸雄 山口和俊(大12)、朝比奈冬男 内川晃廣 小谷兼夫 小林三郎 近藤達也 中村奎吾 納堂秀樹 星出 潔 村井邦彦 吉田久典 若山忠(大13)、天木國男 白井和宣 小口 晃 葛山 薫 加藤博善 古山捷二郎 高橋勝彦 田川智春 土井健一郎 中村 弘 名口幸夫 野村裕(大23)、奥村淳一 金子俊治 河英樹 羽瀨展世 古川浩司 丸居裕(大14)、海野廣司 海老 洋 大澤義隆 奥村勇雄 木下英男 黒田悦司 鈴木 勝 柘野茂樹 寺田芳雄 富田博司 中澤武昭 藤井駿治 細江讓夫 前田哲顕 宮前秀昭 山本 保 吉田勇夫(大15)、尾関 弘 津勝治 木戸 彪 佐藤充宏 進 従道 浜口栄治 渡辺雅利

(大16)、池谷吉人 石川喬敏 大原和夫 岡本和之 川崎憲夫 蔵田昭憲 栗林 昭 滋野輝彦 柴原良昭 柘 治三 豊田徳司 中根昌孝 並河日出夫 西尾郁夫 山本節夫(大17)、市岡隆治 岡田憲治 兼松泰男 小倉好博 景山哲也 栗原喜代次 小梶清司 杉野好宥 田中和夫 千葉 茂 徳山秀雄 中村嘉秀 西川清悟 林 良孚 村瀬尚文(大18)、伊藤博邦 井上博之 江藤晋一郎 岡 廣司 小野孝史 門平孝二郎 小山久照 坂野友之 竹森二郎 田辺 徹 丹羽信治 寺井与利雄 土井利明 戸田保延 永田 修 中村達夫 西澤弘行 濱 筆治 松野澄男 宮川 誠 山崎竹夫 和田博之(大19)、岩谷克敏 上田 求 植田兼司 上野恵三 大八木勉 河原正喜 北本正和 蔵 彰 田中二郎 農守義文 角田健一 浜野信裕 井善三 松山 仁 宮武 修 持田春夫(大20)、石川公一 射場茂喜 上田文男 植野克美 親里哲雄 藤野義男 細井富雄 増田洋逸 米山 修 山口勝三 山下修司 吉田富美男 脇坂 守(大21)、市川耕治 川分啓史 北野敏彦 小林忠志 長公良 長井和男 長尾成基 能島伸夫 山代真佐行 山田 忠 山脇一泰(大22)、稲波信一 大矢 武史 品川悦夫 中岡浩三 中村勝己 西以久夫 野村勝良 深谷靖純 堀内裕(大23)、奥村淳一 金子俊治 河江泰平 上ヶ市俊之 斎藤裕士 仙田修三 高木 章 高橋俊之 田中恒男 玉城 力 徳山 均 本田吉弘 山崎 勉 吉岡敏昭 湧川勝己(大24)、石黒俊一郎 岡本幸博 香山 隆 楠田芳弘 小谷恭一 田村弘昭 中尾佳史 濱塚純一 福田康夫 藤村善之 安井喜重 山田将人 山本哲治(大25)、長 誠次 北野義隆 京極政好 近森彦義 重田博(大26)、岩崎博之 溝口信吾(大27)、奥田慶一 桑島英彰 小杉裕司 西川元啓 服部 修 馬場敬夫 堀田恭史 宮崎吉史(大28)、浅見 徹 大下雅司 緒方俊輔 奥田俊彦 中野達也 牧野 武 吉本準一(大29)、磯野和也 大江康浩 武田吉史 野村孝次郎 山口義明 吉田繁喜 和田昌信(大30)、黒岩征一郎 福田徳実 藤井 登 松山宮子(大31)、小林智子 酒井康就 進藤盛之 田邨弘樹 斜木克彦(大32)、今田 淳 清塚 徳 西野忠宏(大33)、梅岡敦司 大槻泰公 岡武俊雄 当野実樹 丸山貴弘(大34)、岸田直明 清水範之 能登英彦(大35)、小西秀樹(大37)、大原孝明 岸野正史 北川昌樹 松澤 進(大38)、蒔田英一郎(大39)、立木賢一(大40)、畑瀬英樹(大41)、上田 修 山本雅由(大42)、佐藤 篤(大43)、木田浩一 矢野浩臣(大46)、弥田有三 山本理恵(大48)、秋山直登 平 大輔 中島幸一郎(大51)、肥田茂之 山下知子(大54)、戸田友香(大55)、杉田佳世子 富田光生 島山美智子(大56)、伊勢健二郎 中島智孝 平良友枝 松田慎祐(大57)、賀集 渉 久米広知 シヤルマ・ムニク 中村早織 濱田英嗣 尾藤弘喜 柳瀬友歌(大58)、傘木良三 北澤勝太郎 佐藤嘉代子 清水俊彦 西川浩康 日高信次 堀口 發(短)、深見康孝(院)

昭和三十年代後半から発行されておよそ五十年、わが「東京陵水」紙は一〇〇号を発行するまでに至った。同窓会機関紙としての役目を何とか果たしたいと、スタッフで知恵を出し合い、会員諸氏からのアイディアの提供を頂いてきた。現在のスタッフが担当してから十五年、紙面は次第に読みやすくなってきたことは自負している。しかしながらスタッフがメンバーの新規交代がなく、なんとか新企画を焦りながらも、定着した企画の枠の中で安堵してきたことは間違いなく、同窓会機関紙として会員の寄稿を積極的求め、スタッフで足で稼いだ読み物を思い描いていたのだが不十分であった。

ともかく三十二ページの「紙」よりも「誌」に近いどしりしたものが出来るまでに至ったのは、会員はじめ母校、現役学生の皆さんのご支援と協力のおかげであり、感謝いたします。

今後、母校は九十年、百年と時を画することになるが、それを懸念に追いかけて行きたい。(H)

編集室 所感室



ITシステム性能管理のエキスパート

# 株式会社 アイ・アイ・エム

賀  
新  
年  
謹  
賀

URL <http://www.iim.co.jp>

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 代表取締役会長           | 小野 孝史(大19回) |
| 営業本部東日本営業部 部長代理   | 森山 哲臣(大44回) |
| 営業本部東日本営業部 マネージャー | 田村 峰子(大51回) |
| 営業本部東日本営業部        | 中村 早織(大58回) |

|        |                                     |                                      |
|--------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 本社     | 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-20 本郷センタービル  | TEL:03-5684-6771(代) FAX:03-5684-684  |
| 大阪支店   | 〒531-0072 大阪府北区豊崎3-2-1 淀川5番館        | TEL:06-6359-5750(代) FAX:06-6359-5751 |
| 名古屋営業所 | 〒460-0008 名古屋市中区栄2-2-17 名古屋情報センタービル | TEL:052-220-2977(代) FAX:052-220-2978 |

性能管理ソフトウェア「ES/1 NEOシリーズ」と専門SEの手厚いサポートにより  
「システムの安定運用」と「コスト削減」のお手伝いをいたします

欧米に輸出開始  
世界のデファクト  
スタンダードを目指す!

特  
長

1. 豊富な導入実績 ~各業界の大企業を中心に800サイト以上~
2. 自社開発・国産製品 ~お客様からのご要望に迅速かつ柔軟に対応~
3. マルチ環境対応 ~メインフレーム、サーバ、ネットワークに対応~

駐車場の総合コンサルティング

## 日本駐車場開発株式会社

(東証一部上場 証券コード 2353)

東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸ノ内ビルディング

〒100-6510 電話 03-3218-1900

取締役副社長 川 村 憲 司 (大37回)

東京・築地市場近くの本格串あげとワインのお店

## 串あげ 花村

〒104-0045 東京都中央区築地2-14-1 新井ビル1F 電話 03-3545-8765

オーナー 川村憲司 (大37回)

発行所  
〒236-0004  
横浜市金沢区福浦1-14-9  
守谷輸送機工業(株内)  
陵水会東京支部 支部長 守谷貞夫  
電話 045 (785) 3716  
印刷所  
〒110-0015  
東京都台東区東上野1-28-3  
船舶印刷(株)  
電話 03 (3831) 4181

林 史欣 (大8回)  
〒164-0014  
中野区南台2-15-10  
(TEL・FAXとも)  
03 (3381) 4431  
※編集室のメールアドレスは  
hysckys@nifty.com  
(次号分メ切日十月末日)

「会報」原稿・情報「送付先

陵水会東京支部

ホームページアドレス

<http://www2.ocn.ne.jp/~iyousuit/>